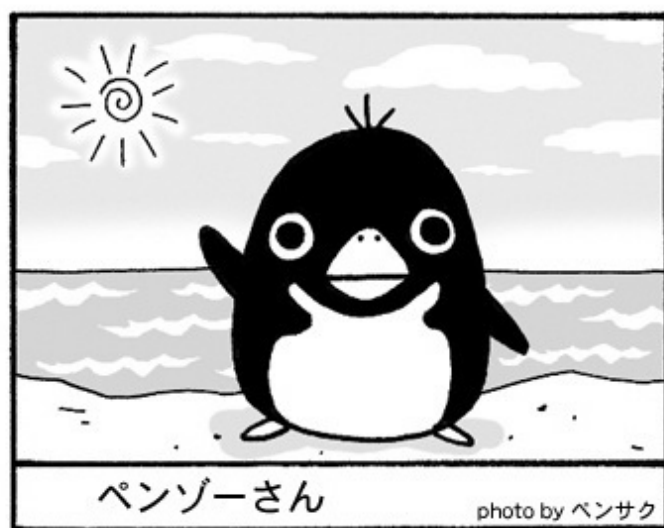


# ペンギンの飛び方



by. ~~ゴハチ~~

ペンゾーとペンサク



俺はペンギンのペンゾー。  
ドーブツしかいない寒い島に住んでいる。

いつも俺達の群れの側で  
俺達を研究観察していたオオタハカセが  
先日亡くなった。



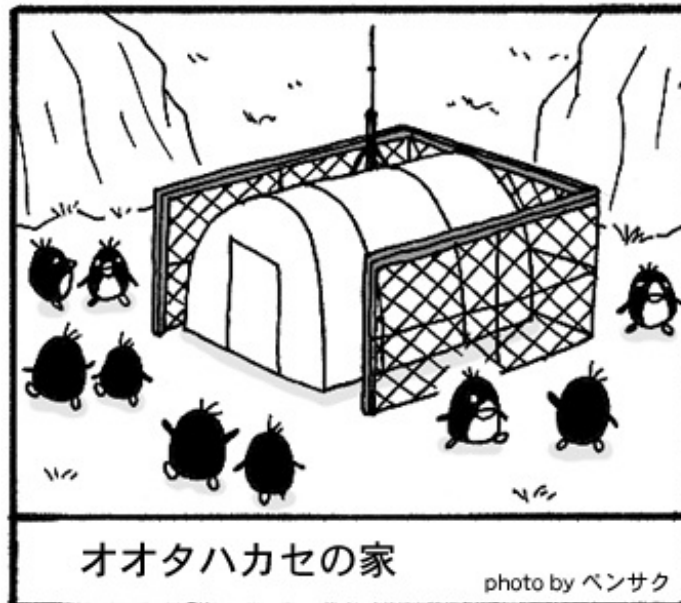
ハカセはこの島に住んだ唯一のニンゲンで  
15年の滞在の間に  
俺達ペンギンの言葉をニンゲン語に翻訳する装置を作った  
とてもすごい人だった。

ハカセは、その装置をいろんなニンゲンに紹介して俺達が住みやすい世界を作ると約束してくれていたがその約束を果たせないまま逝ってしまった。

93歳だった。

俺達ペンギンからしたら  
信じられないくらい長生きだ。  
でももっともっと生きててほしかった。

ハカセは死ぬ直前に、一番仲良しだった俺と群れの中で一番頭のいいペンサクを家に呼び



翻訳装置の使い方を教えてくれた。



とにかく

しゃべるとニンゲン語に翻訳されて  
「字」というものになって出てくるとか  
なんかそんなかんじ。

この装置に毎日

「今日あったことや、思ったこと」を話しかけるようにと  
俺とペンサクは、ハカセに頼まれた。

ペンサクはハカセから、装置のいじり方や記録の仕方や  
「しゃしん」のやり方を細かく教えられ  
数日でそれをマスターした。

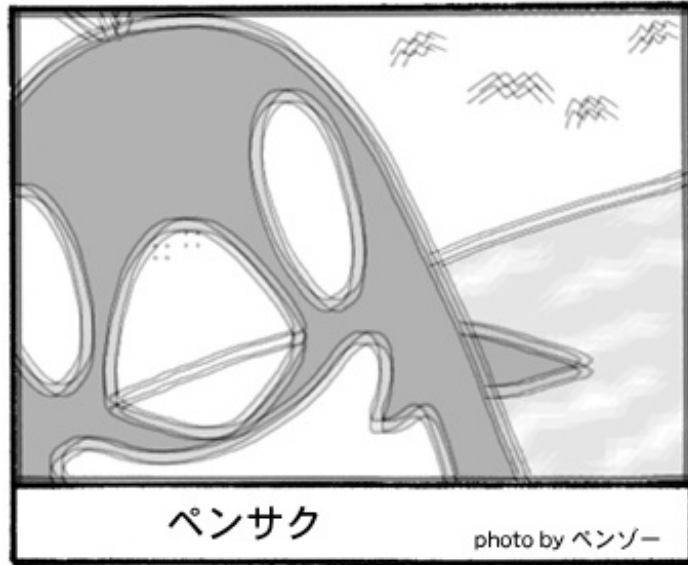
さすがだ。

ハカセも、とても感激していた。  
感激している最中に突然倒れて死んだ。  
すごくすごく悲しかった。

そしてハカセの死後

ハカセに言われたとおりにこうして俺は  
翻訳装置に向かって話しかけている。  
あとはペンサクが記録装置をいじって記録してくれる予定だ。

ちなみに俺も「しゃしん」をやってみた。



...なんでこんなボケボケ...？

俺はもう「しゃしん」はやらない。  
しゃべることに専念する。

で、これホントにニンゲン語に翻訳されてんのか？  
読めないからわかんないじゃん。



おお  
すごいじゃん。  
ちゃんとできてるじゃん「しゃしん」。  
さすがペンサク。  
でもあんまりかっこよくないなあ。  
今日はかっこいい顔した時に「しゃしん」やってよ。

じゃあ、えーと、今日のできごと。  
しゃべります。

特になし。  
おわり。

で、毎日これ続けるのってなんか意味あんの？  
あとでニンゲンが見るのか？  
それとも俺達が寝てる間にニンゲンが来て  
見てたりするのか？  
そんなわけないか。

まあ、どうでもいいや。  
オオタハカセに頼まれたことだから毎日続けよう。



今日は、カッコいい顔した時の俺の「しゃしん」を  
女の子達に見せてやった。

俺だって来年は4歳、結婚する歳だ。  
今からモテておかないとな。



「しゃしん」の評判はよかったが  
それでモテたのは俺じゃなくて  
ペンサクだった。

まあ、わかるよ。  
装置いじれるし「しゃしん」やれるし。  
俺もスゲーって思うし。

でもなんかさー  
なんつーかさー  
俺も「すごーい」って言われたいっていかさー。

何かしなくちゃなあ。



決めた。



俺は世界初の「空を飛ぶペンギン」になってやる。

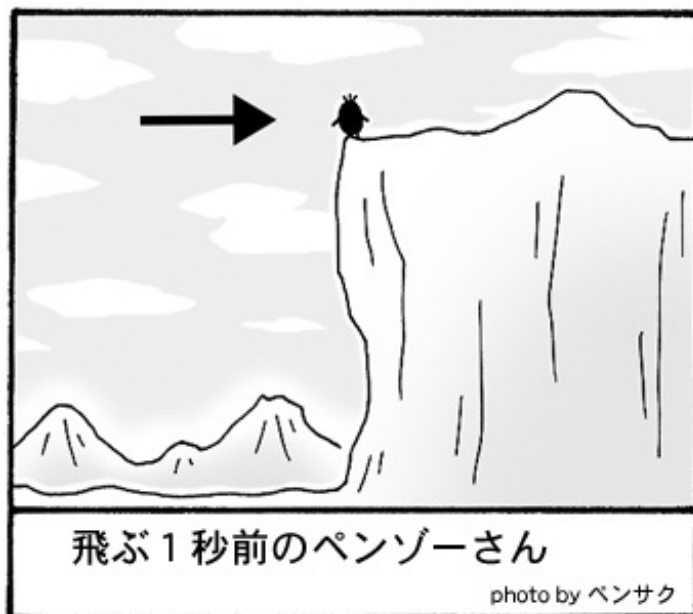
モテるぞ絶対。

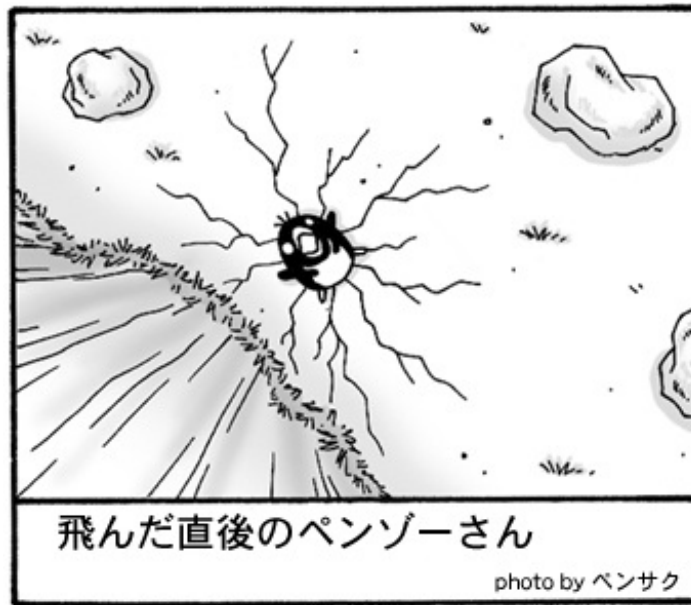
今日から飛ぶ特訓だ。

やり方はわかってる。

飛んでる鳥を見てたらすぐわかつちやったよ。

翼をすごく早くバタつかせればいいんだ。



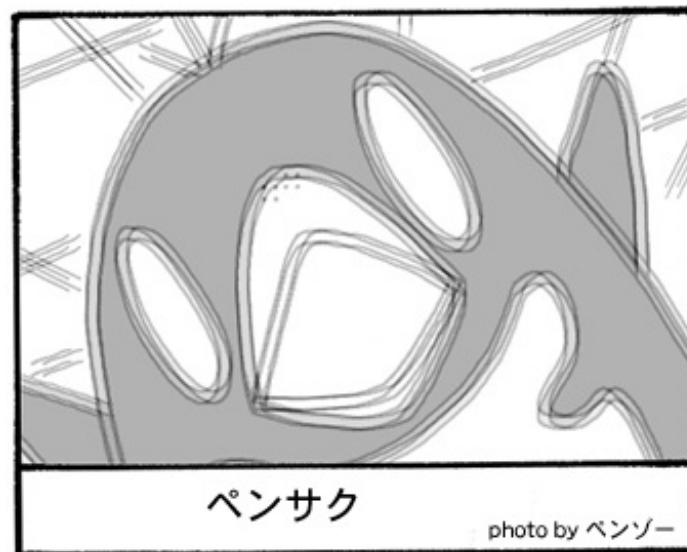


死んだかと思った。



ふん。まあいいや。  
飛べたからってモテるとは限らないしな。

ヒマだから「しゃしん」してみた。



またボケた。  
ちっ

突然お客さんが来た。



顔見知りじゃないな。

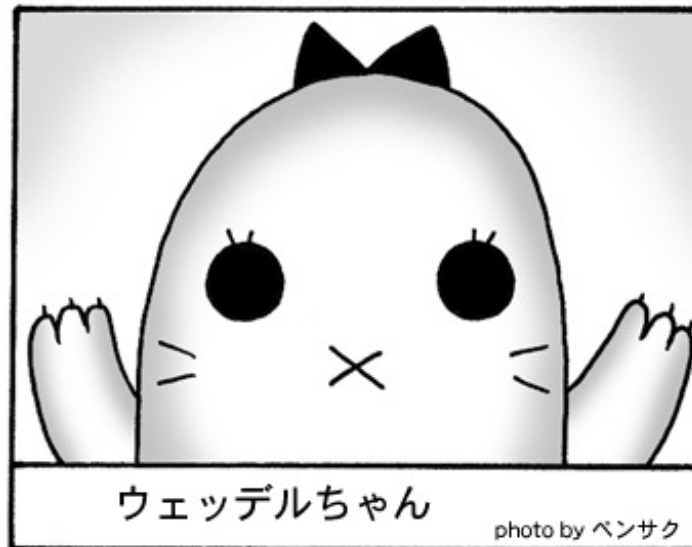
誰だろう。

アザラシだってこと以外は何もわからない。

「こんにちは！

私、ウェッデルっています！

よろしくね！」



ウェッデルちゃんはメスのアザラシで

オレより大きいけど

まだ大人じゃないんだそうだ。

ウェッデルちゃんは  
飛びたがってるペンギンがいるというウワサを聞いて  
「なんて夢のあるペンギンさん！」と思い  
会ってみたくなって  
西の海岸からはるばるここへ  
やって来たらしい。

「私も夢があるんだけど  
誰に話しても無理無理！って言われて  
いつも悲しい思いをしててね。  
でも、あなたとなら  
無理な夢を追う者同士  
話が合うんじゃないかな、って思って  
会いに来てみたのっ！」

え？  
俺の他にも  
無謀な夢にチャレンジしてるヤツがいたんだ！  
なんだか心強いなあ。  
仲良くなれそうかも。  
  
で、キミの夢ってなに？



なにそれ。

昨日は、あのあと  
なんだかけっこう話が盛り上がっちゃって  
気がいたら日が落ちてて  
ウェッデルちゃんを  
うちに泊めてあげることにした。

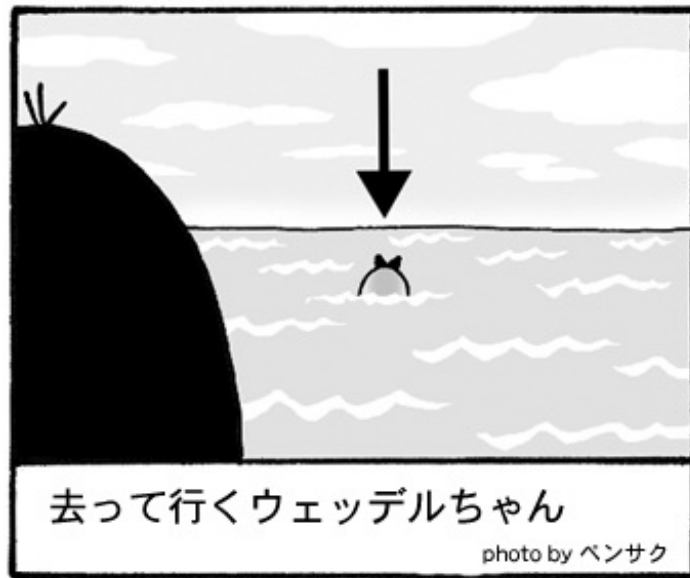
俺もウェッデルちゃんも  
話し疲れてバク睡だった。



ウェッデルちゃんが言った「アイドル」ってのは  
つまり「水族館の人気者」のことだった。

その話は、長くなるから  
また明日にするよ。

ついさっき、俺はウェッデルちゃんを見送った。  
ウェッデルちゃんは  
元気いっぱい泳いで帰った。



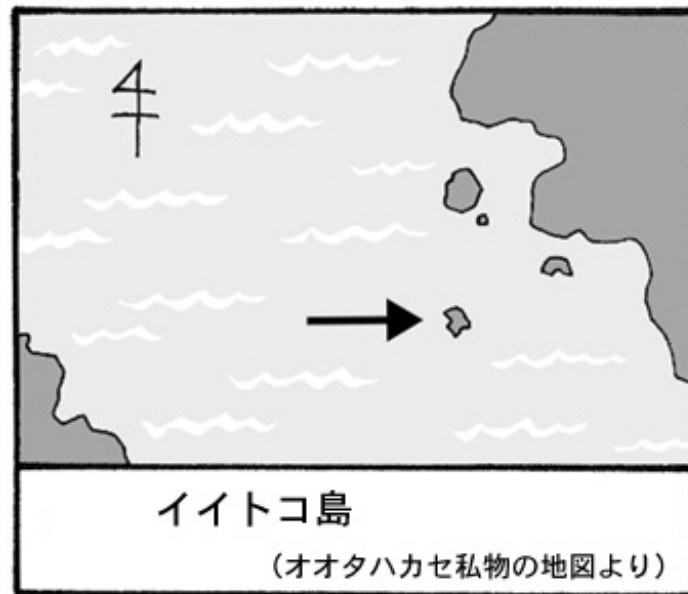
子供の頃、母さんに  
「相手の姿が見えなくなるまで見送るのが礼儀よ」と  
しつけられたけど  
ウェッデルちゃんの頭はちょっと大きくて  
いつまでたっても見えていた。

ちょっと困った。



ウェッデルちゃんの話をもとめると  
こんなかんじだ。

ここから、太陽が沈む方角にまっすぐ進むと  
「イトコ島」という  
ニンゲンが暮らしている島がある。



ウェッデルちゃんは、実は  
そこの水族館で生まれたんだそうだ。

生後一年にも満たない頃  
島が大洪水に襲われ  
ウェッデルちゃんは流されて海に出てしまい  
気付いたらここに着いてたらしい。

漂着した海岸に  
たまたま同種のアザラシが大勢いて  
拾われたのはラッキーだった。

で。

ウェッデルちゃんのパマは  
たくさんの芸ができるアザラシで  
イトコ島水族館のアイドルだったらしい。



生まれた時からママの活躍ぶりを見ていたウェッデルちゃんは  
自分も大人になったらママのように芸をして  
たくさんのニンゲンに拍手されるアイドルになろうと  
心に決めていたらしい。

なのに、運命のイタズラでウェッデルちゃんは今  
ニンゲンが一人もない野生の世界にいる。

ウェッデルちゃんは  
いつか必ず水族館に戻ってアイドルになるんだ！という  
夢をいだいている。

が、周りのアザラシに話しても相手にされないらしい。

ウェッデルちゃんの話をもここまで聞いてから  
俺達は眠った。

起きてから俺は  
ウェッデルちゃんの話についていろいろ考えた。  
その話はまた明日。



ちなみに俺も子供の頃はフワフワでかわかったよ。  
群れの中で一番かわいって大評判だったんだ。  
なっ？ペンサク！

なっ？(怒)

だいたいさ

アイドル云々以前に

イトコ島に戻ることも自体が不可能だよな。

遠すぎてワタリドリさんぐらいしか行けないもんな。

でも俺は考えた。



赤ちゃんアザラシが

遠い遠いイトコ島水族館から流されて

無事にここに辿り着いたという

とんでもないラッキーについて。

(大抵は他の動物に食べられるか

力尽きて死ぬよね。)

ウェッデルちゃんはもしかしたら

超ラッキーな女の子なのかもしれない。

辿り着いたところが

たまたま同種の仲間のたまり場だったってのが

その証拠のような気がする。

だとしたら、夢の実現もあながち

無謀とは言えないような気がしてきた。

うん。俺はそう思うよ。

ま、俺の「飛ぶ」っていう夢のほうが  
実現すんの早いと思うけどね。

だって俺  
鳥だもん。



なんだよ！

この前はたまたま失敗しただけだよ！  
こんな写真載せんよペンサク！

また一晩考えて、ついに俺は確信した。



ウェッデルちゃんの夢は  
実現不可能なんかじゃない！

だってイトコ島に行く方法はあるんだよ！  
俺、考えついちゃったもん！

=イトコ島に行く方法=

- 1・ウェッデルちゃんがすっごく頑張って泳ぐ
- 2・大きなお魚さんにつかまって運んでもらう
- 3・ニンゲンに連れていってもらう

どうだ！いい案ばかりだろ？

俺って頭いいなあ。

さっそく明日ウェッデルちゃんに報告に行こう！



ん？  
何か言ったか？ペンサク。  
え？  
どの案も無理っぽい？  
なんでだよ

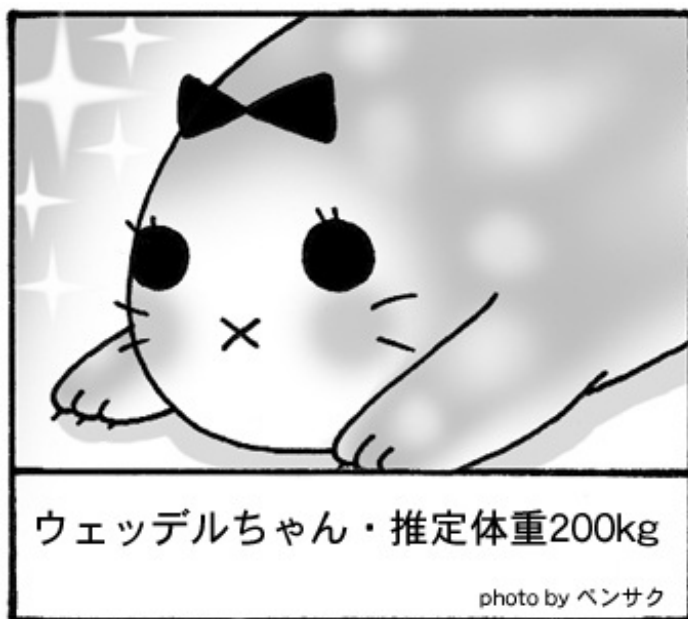
=ペンサクの反論=  
1・泳いで行くには遠すぎる。  
すっごく頑張るとかいう問題じゃなくて。  
2・大きな魚はみんな遠くの沖にいるから  
頼みに行けない。  
3・ここにはニンゲンがいないし  
ニンゲンが来たのも見たことない。  
(オオタハカセ除く)

なんだよ全否定かよ！  
否定するんならおまえも何か1個ぐらい  
いい案だせよ！

=ペンサクの案=  
「すっごく大きなワタリドリさんの背中に乗って運んでもらう」

鳥？

ウェッデルちゃんを乗せることができる鳥？



どんだけでかい鳥だよ！

いたらすげーよ！

バカッ！



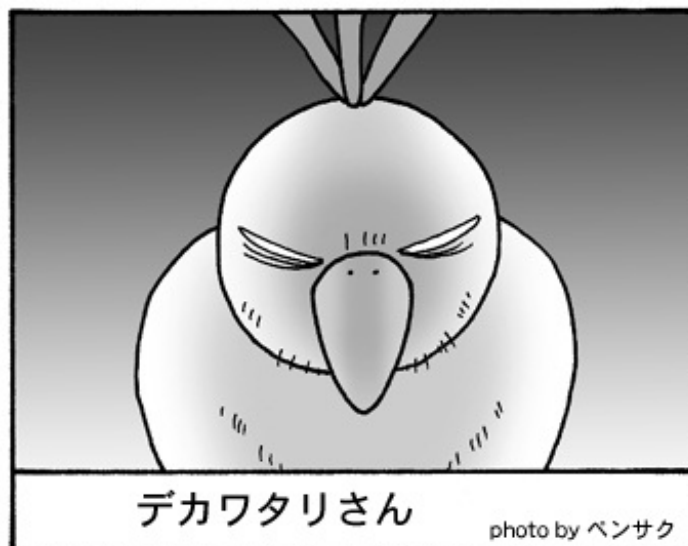


こ、これはっ！

伝説の怪鳥・デカワタリ！？

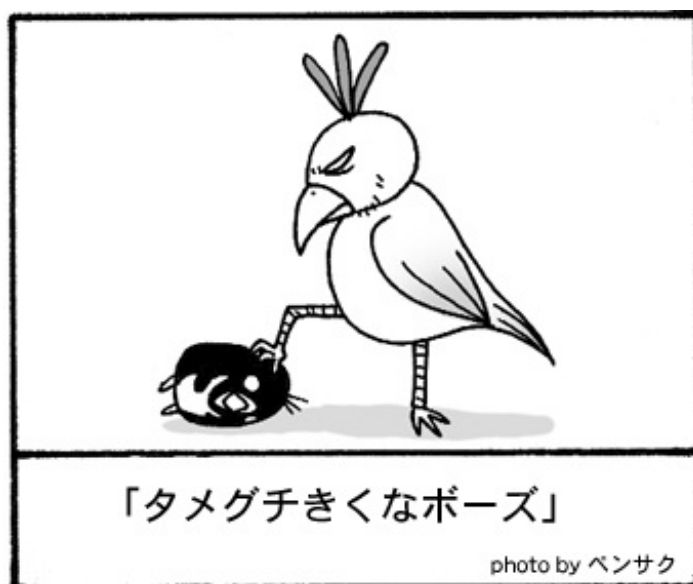
## デカワタリ

分類	怪鳥
全長	翼開長・4m
特徴	<p>1年間で計6万kmを渡ると言われる、巨大な渡り鳥。 目撃情報はいくつかあるが、人間界ではいまだその生存がハッキリとは確認されておらず、「幻の鳥」と言われている。伝説上にのみ存在する架空の鳥だという説もある。</p> <p>古文書によると、見た目は怖いが心の優しい鳥であり、ケガをした動物や危ない目にあいそうな動物を見かけると背中に乗せて安全な場所へ移動させるという。</p> <p>真偽のほどはわからないが、シャチやアザラシを背中に乗せて飛んでいるのが目撃されたという記録もあり、ケタ外れの筋力を持っている可能性がある。</p> <p>その他の生態については詳細不明。</p>



スゲースゲー！  
伝説の渡り鳥・デカワタリが目の前にいるよ！  
俺、初めて見ちゃったよ！

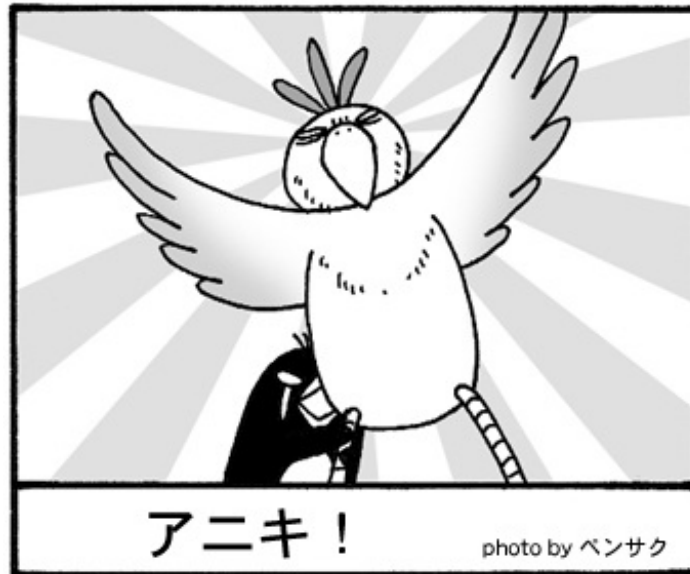
デカワタリさん  
ほんとでっかいねえ！



デカワタリさんは100年以上生きてる大先輩だった。  
礼儀にはキビシイようだ。  
今後は気をつけないと。

敬意をはらって

これからはアニキと呼ばせていただこう。

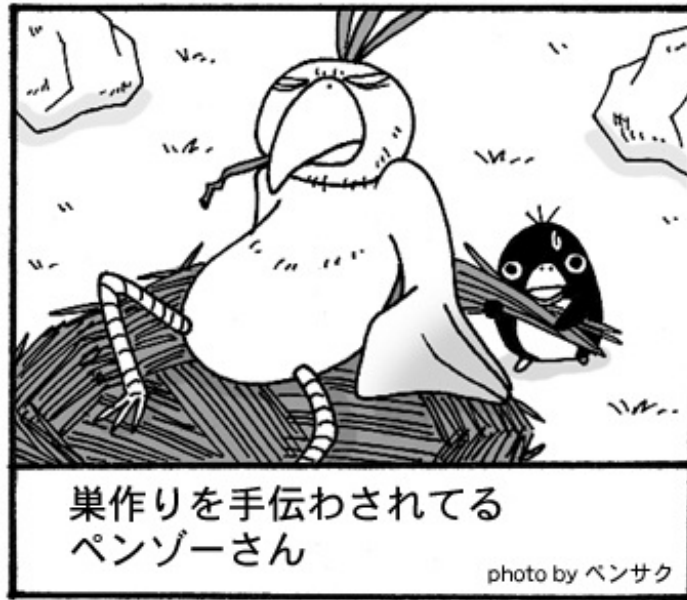


アニキは渡りの途中に  
ケガをして泳げないでいるゾウアザラシを見つけて  
ほっとけなくなって  
一番近いこの海岸まで運んできたらしい。

でも、重いゾウアザラシ運んでだいぶ体力使っちゃったから  
一ヶ月ぐらいはこの海岸で休んでいくってさ。  
(渡り鳥なのにマイペースだね)

よし！  
アニキの体力が回復したら  
ウェッデルちゃんをイトコ島まで運んでもらおう！  
アニキが元気になったら頼んでみよう！

大丈夫！きっとOKしてくれる！  
デカワタリって一見こわそうだけど  
心の優しい鳥だってウワサだもんな！

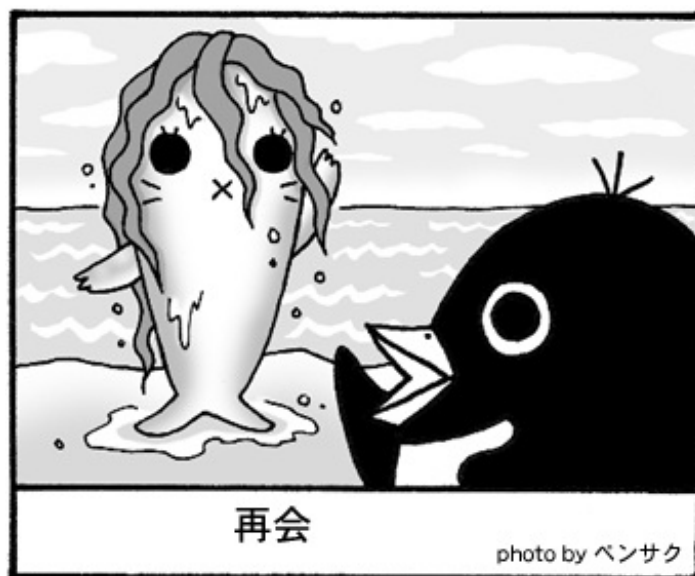


ウワサだけかも。

あれからデカワタリのアニキは、ずーっと寝たまんま。  
ゾウアザラシ運んでよっぽど疲れたんだろうなあ。  
(そりゃ疲れるよね)

今日は  
ウェッデルちゃんのいる西の海岸まで行った。  
怪鳥デカワタリと知り合いになったよ！って  
報告しようと思って。  
うまくいったら  
イトコ島に運んでもらえるかもしれないよ！って。

西の海岸は、俺んちからはちょっと遠いんだけど  
ウェッデルちゃんの喜ぶ顔を想像しながら歩いてたら  
あっという間に着いちゃったよ。



ウェッデルちゃんは海からあがったばかりで  
頭に海草がついてた。  
へんてこな頭のウェッデルちゃんを見て  
ちょっとかわいいな、って思った。  
俺、天然ぽいコに弱いんだよなあ (照)

ウェッデルちゃんに  
「大きなワタリドリの背中に乗って  
イトコ島に運んでもらう作戦」について話した。

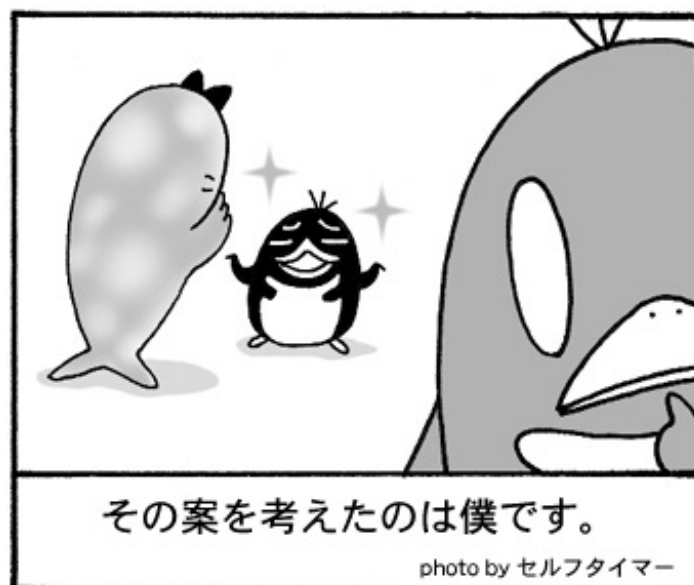
あともちろん、アニキと出会った事も。  
ウェッデルちゃんはやっぱりすごく感激してくれた。



「すごい！ありがとうペンゾー君！  
私、そんな作戦ぜんぜん考えつかなかった！  
でもなんでそんなに私の夢のこと考えてくれたの？  
ペンゾー君、自分の夢のことで忙しいのに」

俺は言った。

「無謀な夢をおっかけてるウェッデルちゃんの気持ちが  
俺はすごくよくわかるから、他人事とは思えなくてさ。  
つい一生懸命考えちゃったよ。」



ウェッデルちゃんは目を細めて（←たぶん笑顔）  
「ありがとう。一緒に頑張ろうね。」

私も夢をあきらめないから  
ペンゾー君も絶対あきらめないでね。  
ペンゾー君が途中であきらめたら私  
『やっぱり夢は叶わないものなのかしら』って思って  
頑張れなくなっちゃいそうだから  
ペンゾー君  
絶対飛んでね。  
約束だよ。」  
と言った。

そうか。  
俺があきらめたら  
ウェッデルちゃんも頑張れなくなっちゃうのか。  
ガッカリしちゃうのか。  
その笑顔ももう見れなくなっちゃうのか。  
それは悲しいなあ。

じゃあ俺、飛ぶよ！  
絶対に飛ぶよ！  
だからウェッデルちゃんも  
あきらめるなんてナシだぞ！

俺が夢中でそう叫んでたらウェッデルちゃんが



ギュってしてきた。

びっくりした。  
すごいドキドキした。

あと、ちょっと痛かった。  
アザラシの爪ってけっこう鋭いんだな。  
ちょっと爪アトついちゃったよ。  
そんなのどうでもいいけどさ。



ちょっとどころじゃなかった。



ゆうべは眠れなかった。

なんか  
胸が一晩中キューツてして  
苦しかったんだ。

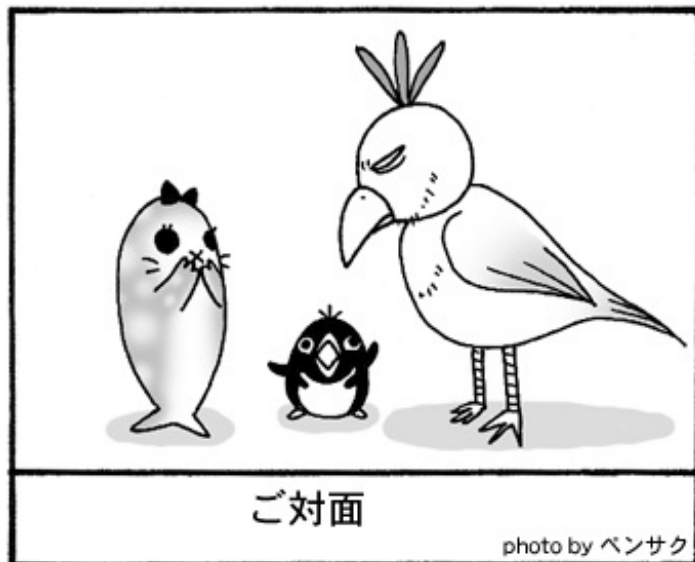
どうしちゃったんだろ俺。

病気かもしれない。  
今日はおとなしく寝ておくよ。



ちょっと爪アトもね...  
思ったより痛いっていうか...

ようやくアニキが起きたから  
「紹介したいアザラシがいる」って  
ウェッデルちゃんのところに連れていった。



俺はウェッデルちゃんの顔を  
なかなかマトモに見ることができなかったよ。  
なんかドキドキしちゃってさ。

まあ、それはいいや。

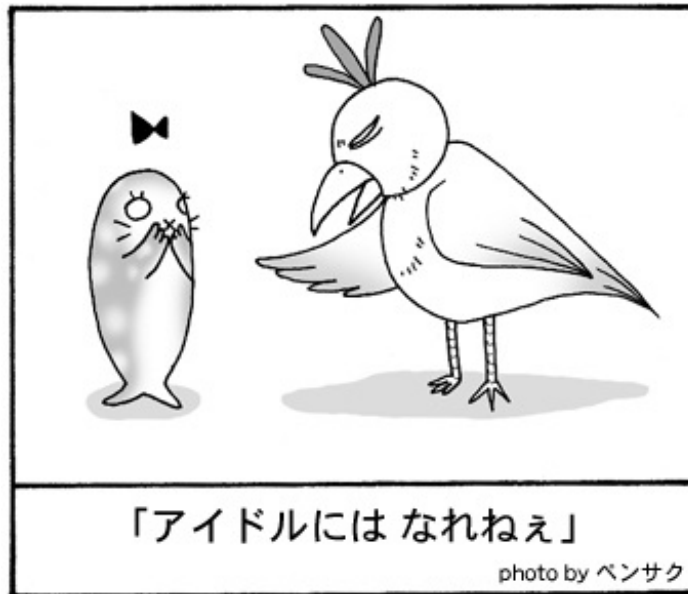
で、アニキに  
ウェッデルちゃんの生い立ちや夢を話して  
イトコ島に連れてってやってくれないか、って頼んでみた。

アニキに頼みごとするのはちょっと勇気がいったよ。  
だってホラ、こわそうだし。

アニキは言った。

「イトコ島水族館には今、フワフワの子アザラシがいて  
そいつがアイドルだ。  
多分あんたの弟か妹だろ。」

あんたのママも子アザラシの人気には勝てなくて  
アザラシショーから引退したぐらいだ。  
今あんたが帰っても」



い、いくらそれが事実でも  
直球すぎるぜアニキ！（涙）

こういう時って  
なんて言ってウェッデルちゃんをなぐさめたらいいんだ？  
俺はそれがわかんなくて、ちょっと黙っちゃったよ。

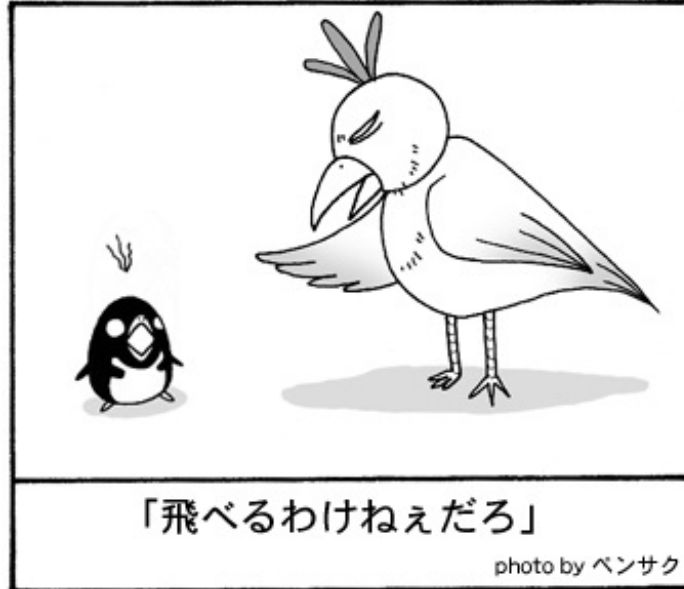
情けないなあ俺...（涙）

そうだ！せめて話を変えよう！  
と思って俺は

アニキに自分の夢を語って  
飛ぶためにはどうしたらいいか聞いてみた。

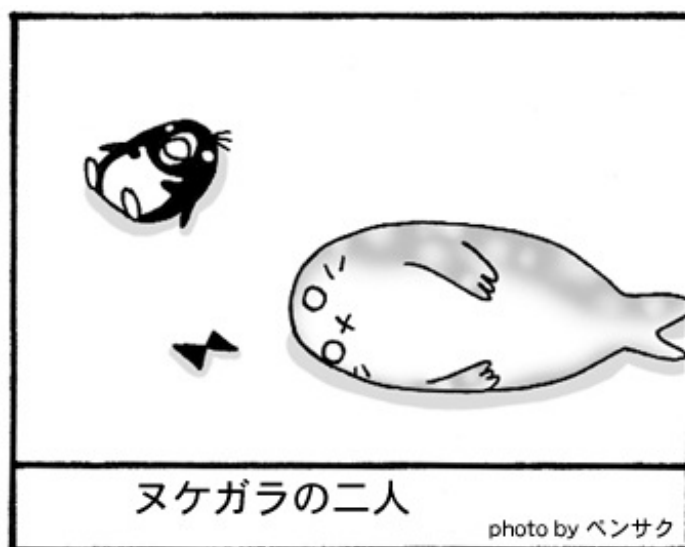
アニキは言った。

「ペンギンなんだから



...ミもフタもないよアニキ... (涙

アニキはハラがへったと言って  
1人で餌を取りに行ってしまった。



いや、こんな時に俺が凹んでてどうする！  
俺があきらめたら  
ウェッデルちゃんも頑張れなくなるって  
この前言われたばっかじゃないか！  
俺が前向きになって  
ウェッデルちゃんを元気づけなくちゃ！

そう思って  
俺は夢中で叫んだ。



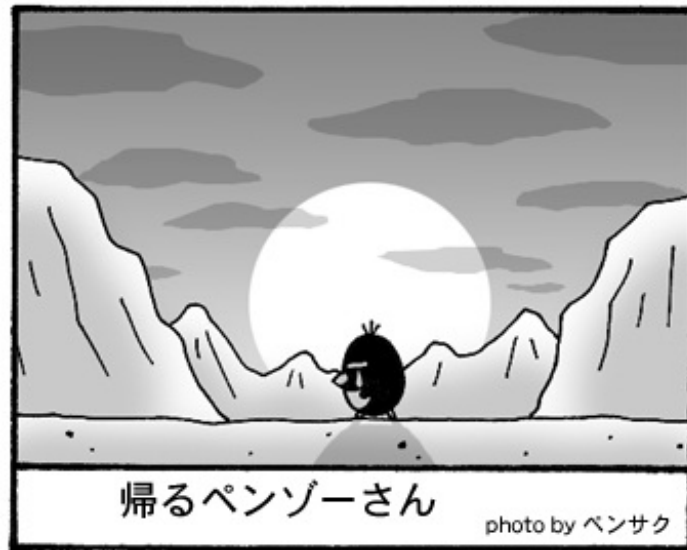
飛ぶ！  
飛ぶったら飛ぶ！  
アニキには申し訳ないけど  
絶対に飛んでみせる！  
ウェッデルちゃんの目の前で！

ウェッデルちゃんは  
びっくりしたような顔で俺を見た。

そのあと  
「うん、そうだよ。私も頑張る！」  
って目を細めた。



ウェッデルちゃんが  
ちょっと元気になってくれたのを見届けてから  
バイバイした。



帰り道、俺は思った。  
ウェッデルちゃんに、こう言ってあげたらよかったんだ。

「フワフワの赤ちゃんもたしかにかわいいけど  
ウェッデルちゃんのほうがずっとずっとかわいいから  
きっとアイドルになれるさ！」って。

一番いい言葉って  
一番いいタイミングで思いつかないで  
絶対あとで思いつくんだ。  
あとで思いついたってどうしようもないのになあ。

まあ、思いついたところで  
目を見て言えるセリフじゃないけど。  
スラッと言えるヤツいたら尊敬するよ。  
弟子入りしたいぐらいだよ。

なんか今日は凹みぎみな話になっちゃったなあ。  
こんな話ニンゲン語に翻訳しなくていいよペンサク。

しなくていいって言ってんじゃない！

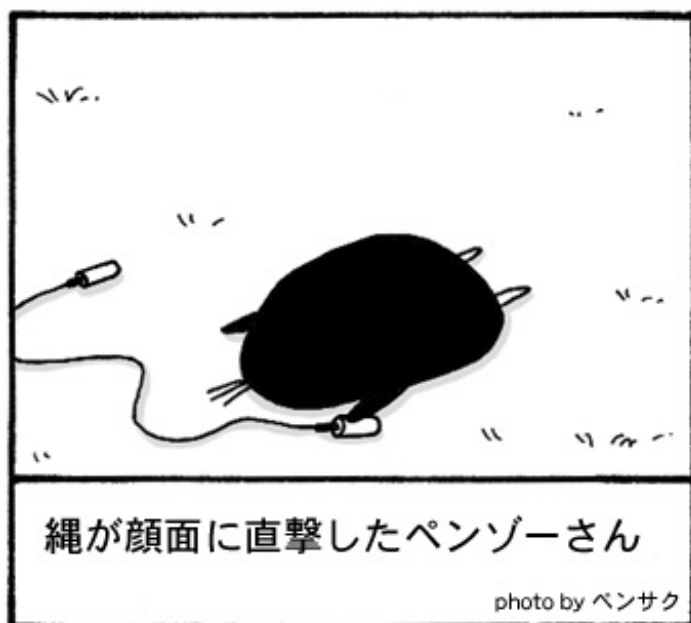


ウェッデルちゃんは本当に元気になったのかな。



なんかさ  
「私も頑張る」って言ってたけど  
今考えればアレって  
カラ元気だったようにも思えるし。

どうなんだろう。  
心配だな。



心配だったから  
ウェッデルちゃんのところに行ってみた。



やっぱりなんか元気ないみたい。  
どうにか元気づけなくちゃ。

そうだ！

手品を見せてあげるよ！  
昔オオタハカセに見せてあげたら  
すごく喜んでくれたんだ！

じゃあ見ててねウェッデルちゃん。  
いくよ？

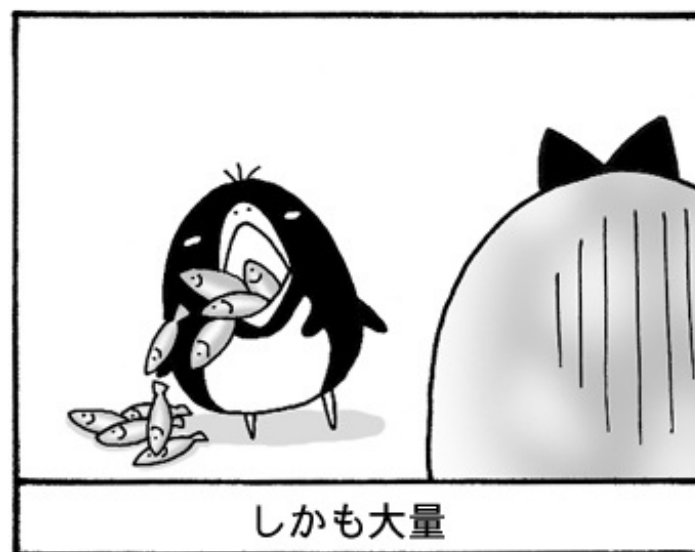
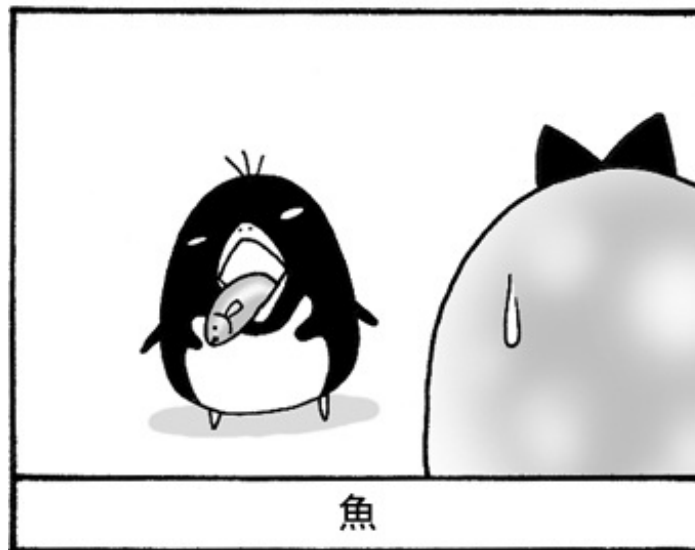


photo by ベンサク (3連写)

ウェッデルちゃんは苦い笑顔で拍手をしてくれた。

あんまり元気でなかったみたい。  
てか、ちょっと引いてるような気もする。

今度はもっといっぱい出せるように頑張らなくちゃ。

え？なに？ペンサク。  
違うって何が？

そうか！

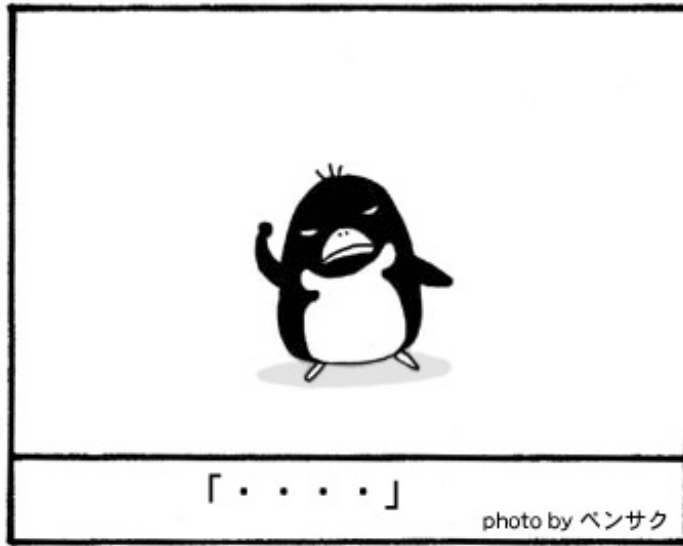
ウェッデルちゃんを元気にするために俺がすべきことは  
手品じゃなかった！



うん、やっぱり、いくら口先だけで  
「俺は夢を叶える！  
だからウェッデルちゃんも夢をあきらめるな！」  
なんて言ったって説得力ないんだよ！

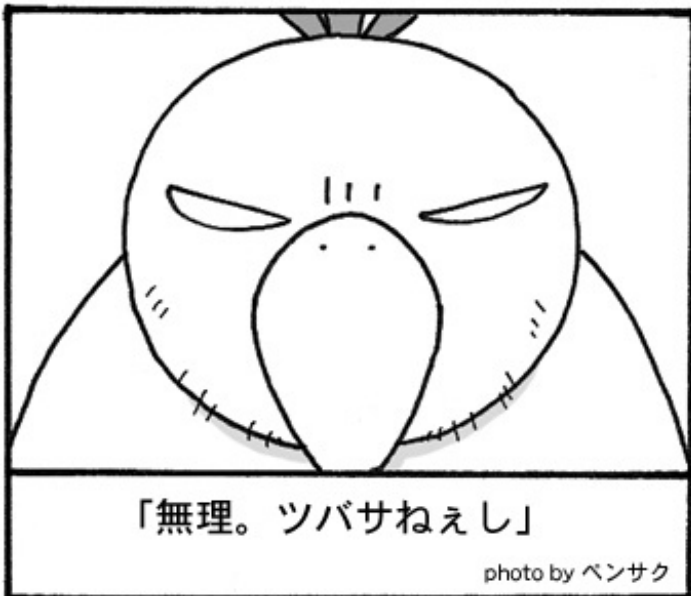
言葉より行動だ！  
俺がちゃんと飛んでみせたら  
きっとウェッデルちゃんも  
また自信を持てるようになるんだ！

よーし飛ぶぞ！  
今度こそちゃんと空を飛んでみせるぞ！  
見てろよウェッデルちゃん！



で  
どうやったらちゃんと飛べんの？

昨日はあれからアニキのところに行って  
どうやったら俺がちゃんと飛べるようになるのか聞いてみた。



ツバサ？

そうかツバサか！

アニキの言葉で俺は気付いた。

俺の翼は他の鳥より小さいんだ！

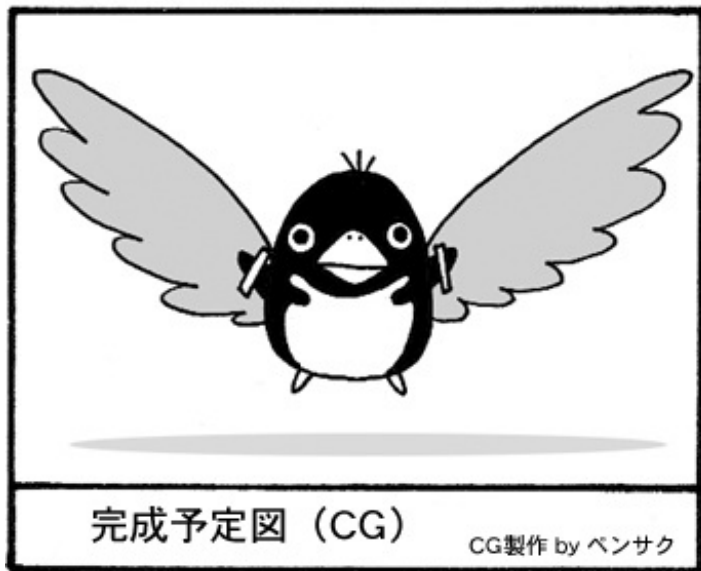
だから飛べないんだ！

翼を大きくすれば、きっと俺だって飛べるんだ！

ありがとうございますアニキ！

俺はアニキの言葉をヒントに  
いい作戦を思いついた。  
名付けて「翼が無けりゃ作りゃいい大作戦」！

海鳥が落とした羽を集めて翼を作るんだ！



完璧な作戦だ！

今日はさっそく羽を集めに行こうと思ったんだけど  
予定図つくるのに徹夜したから  
すごい疲れちゃったよ。

今日は寝て、徹夜の疲れを取らなくちゃ。

おやすみ、ペンサク。  
夕飯のサカナ捕りヨロシクね。





ペンゾーさん、僕が作ってるところ  
見てただけじゃないですか。

photo by ペンサク

羽拾いに出発！  
いっぱい拾ってくるぞ！



え？  
ペンサク、ついてこないの？なんで？  
羽拾い楽しいぞ？絶対。

え？今日忙しいの？  
へー...

じゃあいいよもうペンサクなんか。  
置いてくから。  
俺ひとりで楽しんでくるから。

行っちゃうよ？俺  
ホント置いてくよ？  
ひとりで楽しんでじゃうよ？  
すっげー楽しいよ？きっと

来ないなんてバカじゃん？おまえ



俺を一人にするなよっ！

昨日はペンサクが  
どうしても一緒に行きたいって言うから  
仕方なく連れてってあげたよ。

で。

羽はいっぱい拾ってきた。  
今日はこれでツバサを作る作業だ。

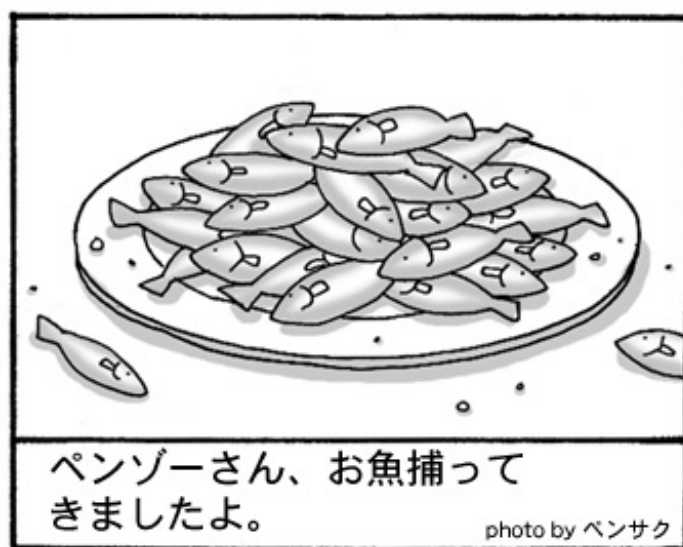
オオタハカセが使ってた「なんでもくっつく薬」で  
羽をくっつけていくことにした。



これ、思ったより時間かかるなあ



ハラへったなあ。  
そういえば朝から何も食べてないじゃん。  
でも魚捕りに行くヒマないしなあ。



おお！サンキュー、ペンサク！  
前から思ってたけどペンサクっていい奴だよなあ。  
いつも一緒にいるから俺に似ちゃったのかなあ。

ん？

なに？今の沈黙



よく頑張ったよ俺！  
えらいよ俺！  
よし、これで俺は世界初の飛ぶペンギンだ！  
見てろよウェッデルちゃん！  
俺、夢を叶えるよ！

これでウェッデルちゃんが元気になるといいなあ。

明日はウェッデルちゃんのところに  
初飛行見学のお誘いに行こう。

ああ、会うの久しぶりだな。  
なんか一年ぐらい会ってないような気がする。  
(ほんとは数日だけど)

ちょっとオシャレして行っちゃおっかな。  
髪型とかこだわってみよっかな。

さりげなく、ね。



いやいやいや、絶対カッコイイって言ってくれるって。



久々にウェッデルちゃんに会ったら  
まだ落ち込んでいた。

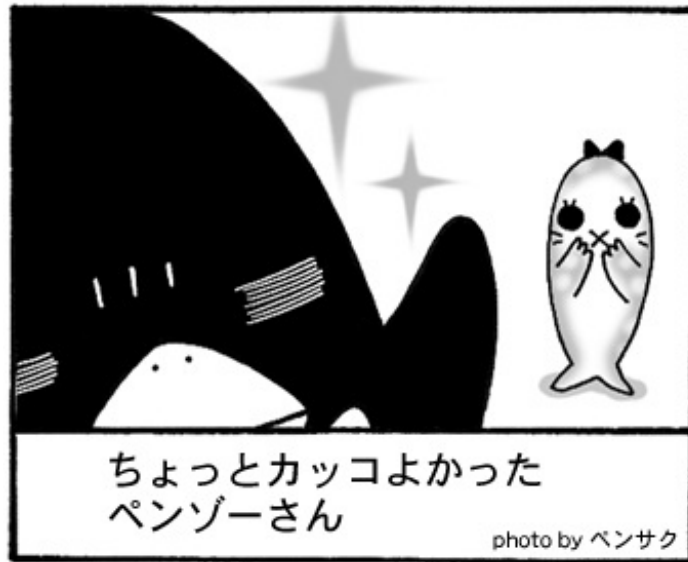


なぐさめるような言葉をかけようかとも思ったけど  
今のウェッデルちゃんに何を言っても  
なぐさめにはならない気がしてやめた。

その代わりに、大きな声で  
「明日飛ぶから、南のガケに来て」  
と言った。

ウェッデルちゃんはびっくりした顔で俺を見たまま  
ウン、と言った。

会話はそれだけ。  
俺はすぐ家に帰った。

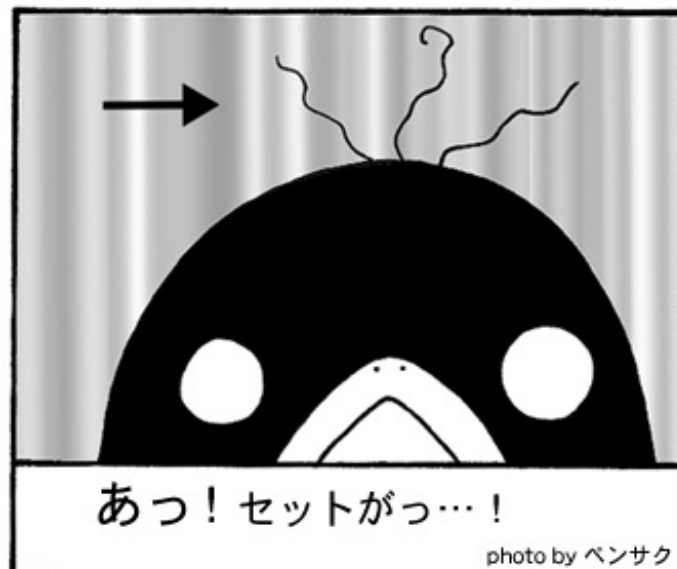


だってそれだけで十分だよね？  
俺が言いたいこと伝わったよね？きっと

ウェッデルちゃん  
俺は絶対に夢を叶えるよ。  
だからウェッデルちゃんも絶対にあきらめちゃダメだ。

明日、俺が飛ぶ姿をしっかりと見ておいてくれ。  
頑張れば夢が叶うことを  
俺が証明してあげるから！

ところでウェッデルちゃん、俺の髪型のこと  
なんにも言ってなかったけど...



うわあああ！

いつのまにこんなことになっ？  
これじゃただの寝グセじゃん！  
かっこわるいじゃん俺！（涙）

くっそー！

明日は絶対かっこよく飛んでみせるぞっ！（涙）

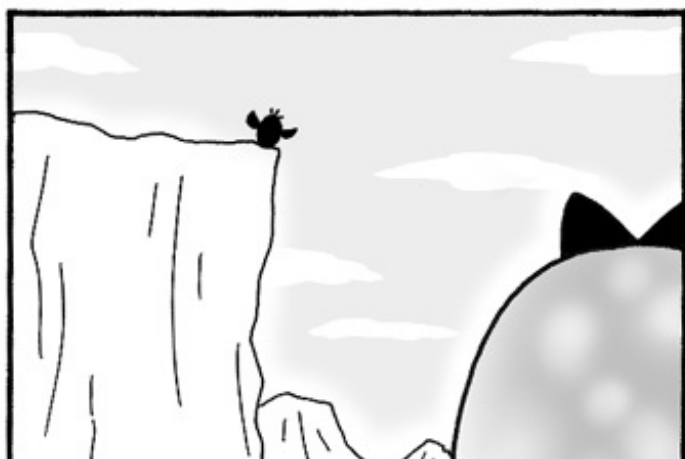
よし！  
いよいよこの日が来たな！

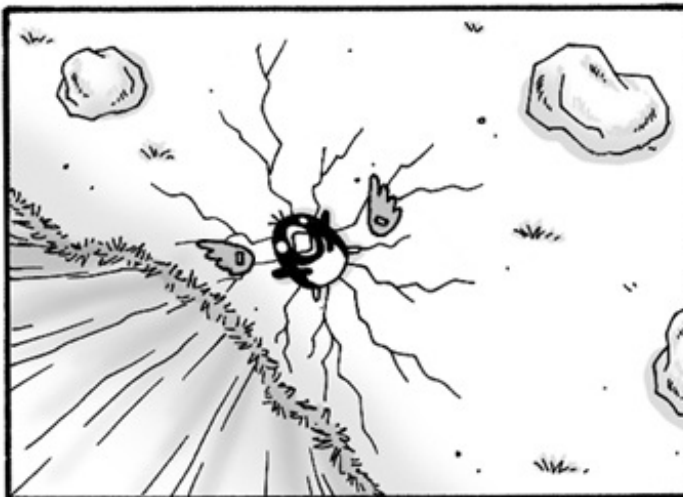
行くぞ！  
飛ぶぞ！

ウェッデルちゃんと共に見守っててくれ！  
ペンサク！

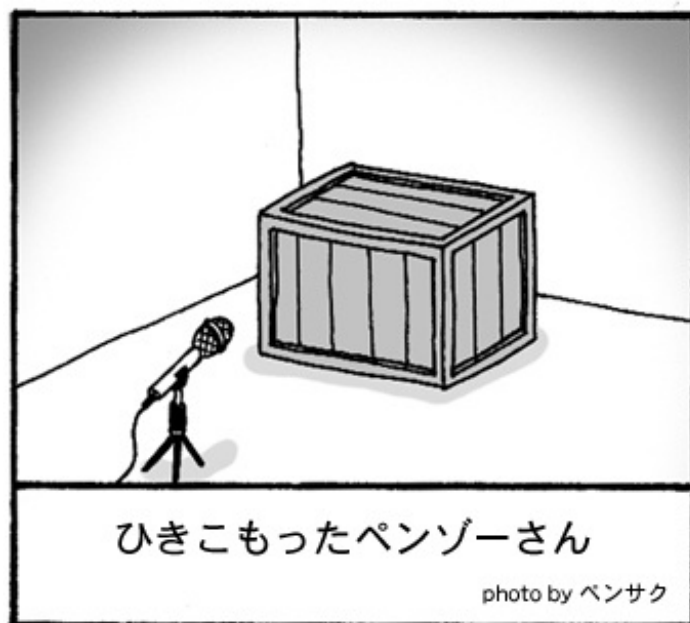


記念すべき初飛行の様子は  
連写でお送りいたします。

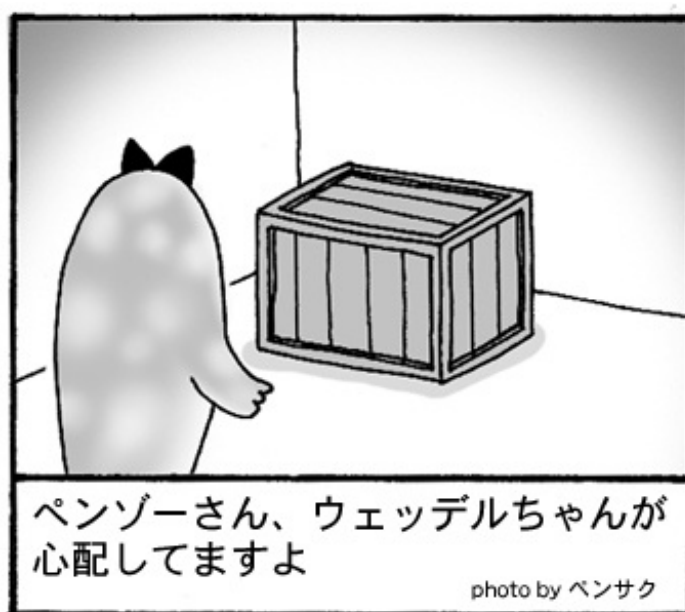




ペンゾーさん・・・(涙)

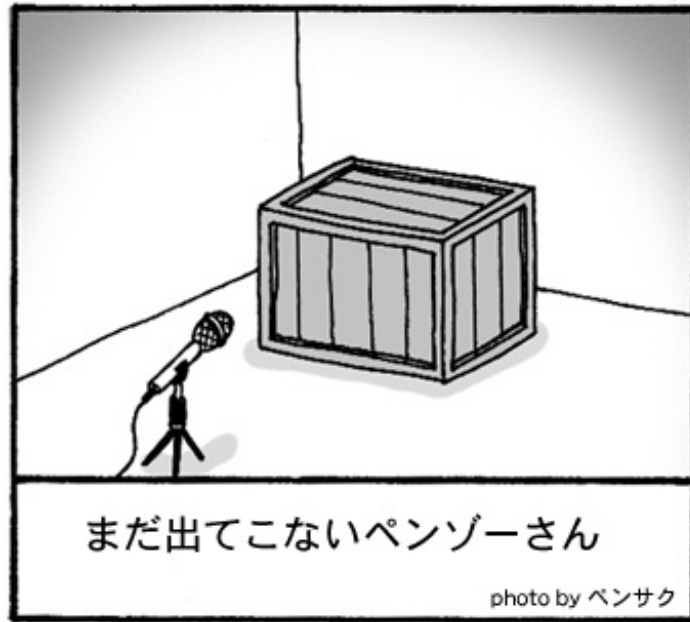


最悪だ...

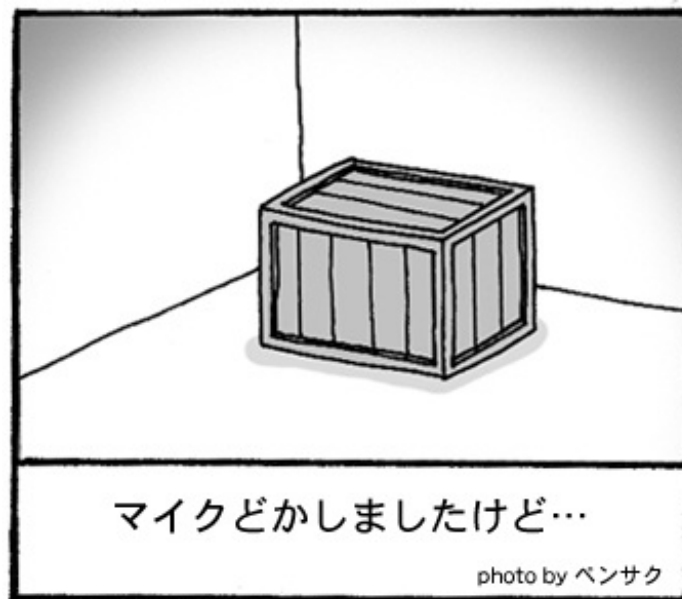


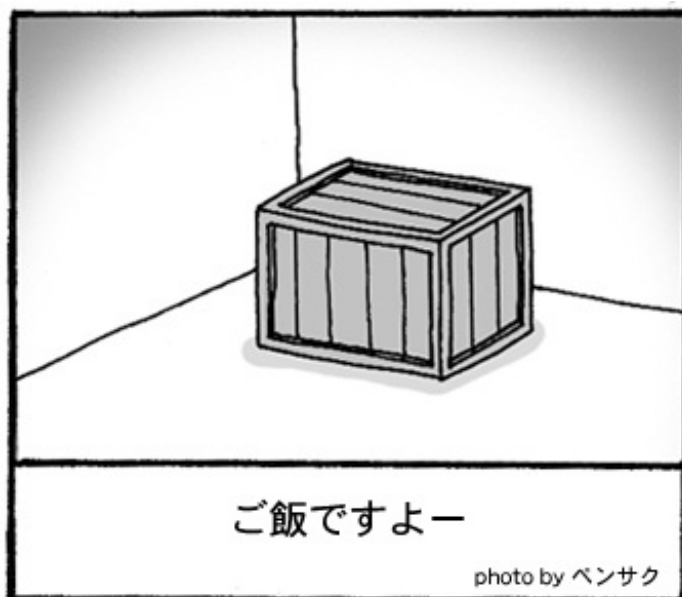
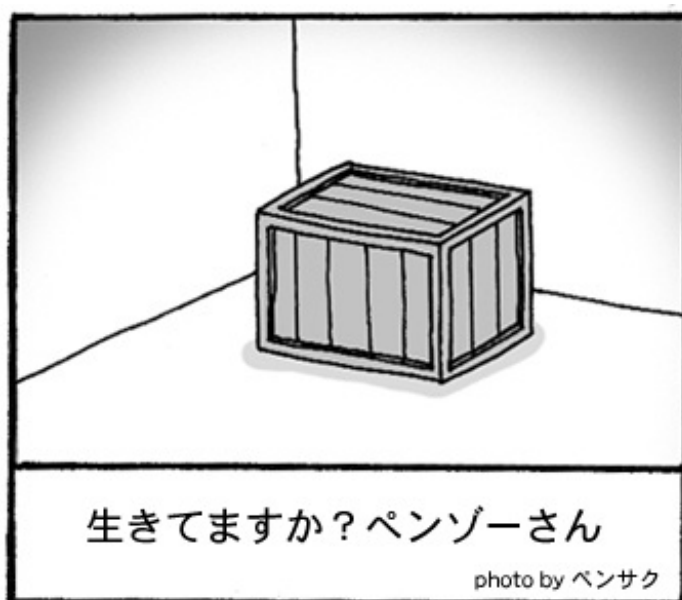
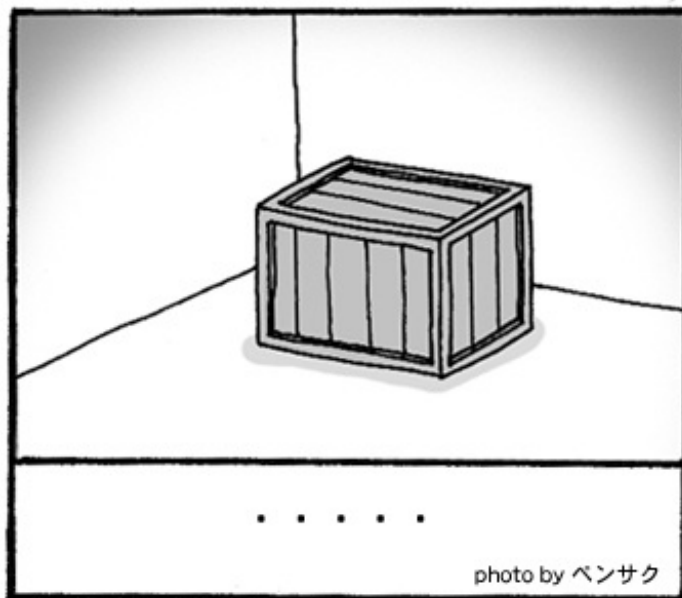
そんなこと言われたってさ。  
どんな顔して会えっての？  
あわせる顔ないじゃん。

ああ俺は弱虫さ。  
もうほっといて。  
一人にしといてくれよ。

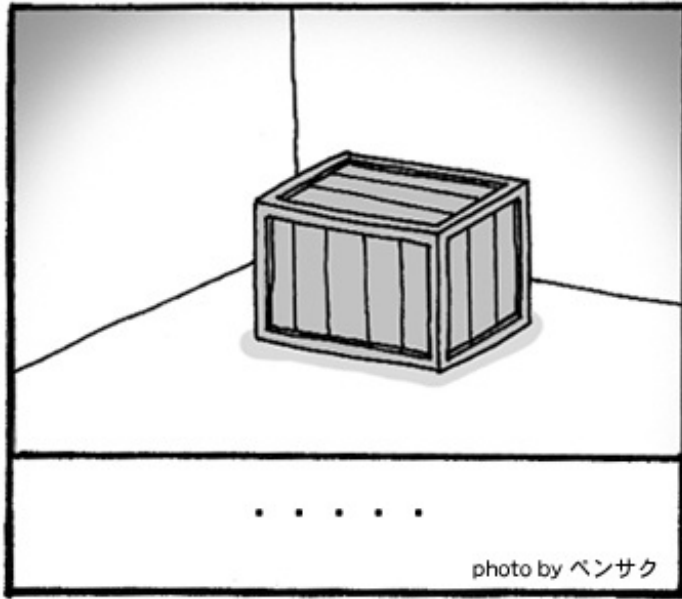


いいからホントほっといてくれ。  
箱の前のマイクもどけてくれ。  
ペンサクもどっか行ってくれ。



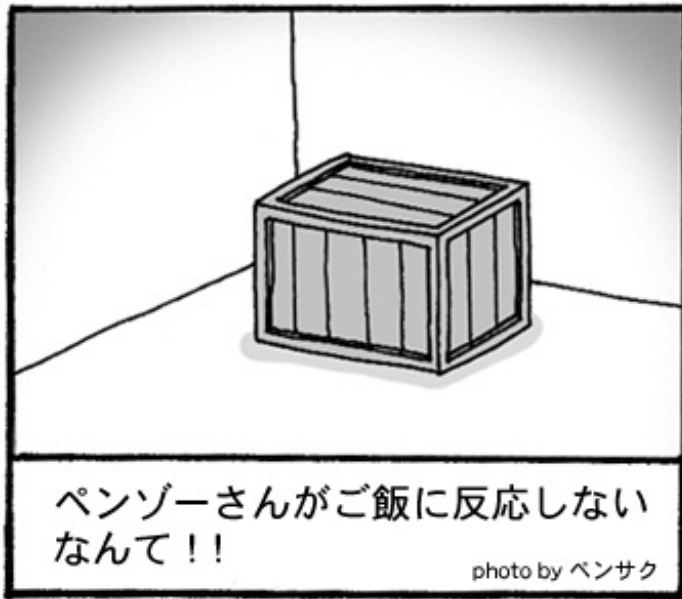






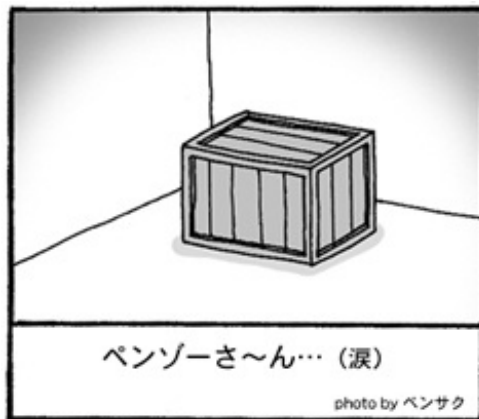
.....

photo by ベンサク



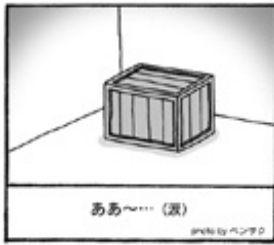
ペンゾーさんがご飯に反応しない  
なんて!!

photo by ベンサク



ペンゾーさ〜ん… (涙)

photo by ベンサク

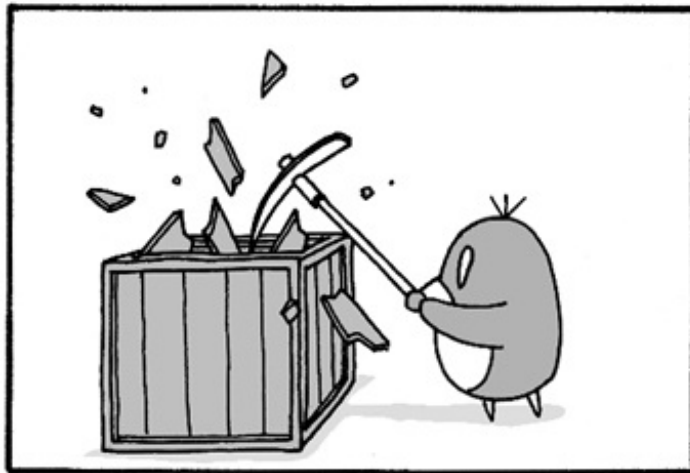
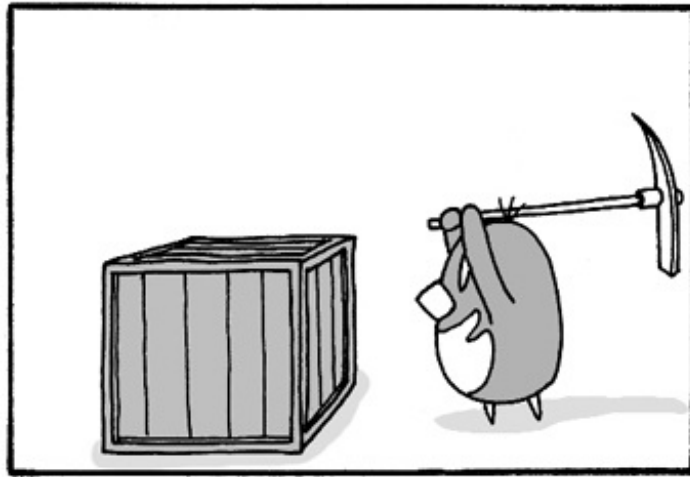




「私ペンゾー君に言いたいことがあるのに。  
いつになったら出てきてくれるのかな。  
ペンサク君、ペンゾー君を外に出すいい方法ない？  
どうにか外に出してけると嬉しいんだけど...」



では、セルフタイマーによる連写で  
お送りいたします。



出ました。

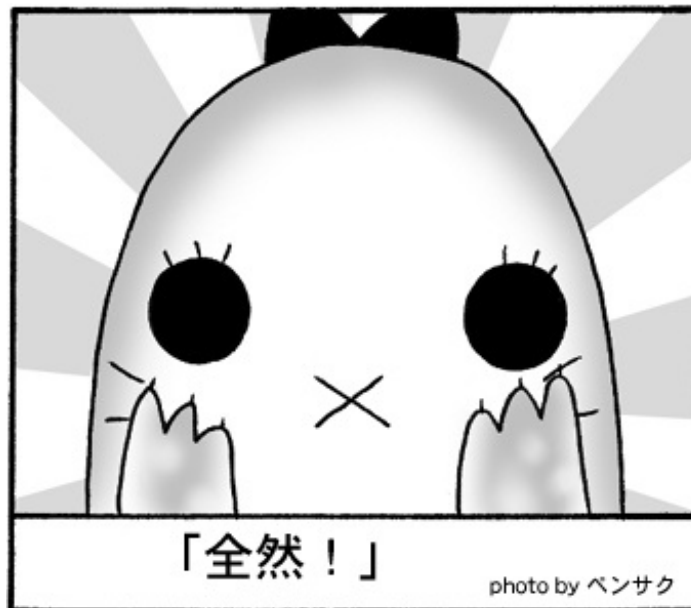
ころす気か————っ



俺はウェッデルちゃんに  
「飛べなくてゴメン」と謝った。



でもウェッデルちゃんは

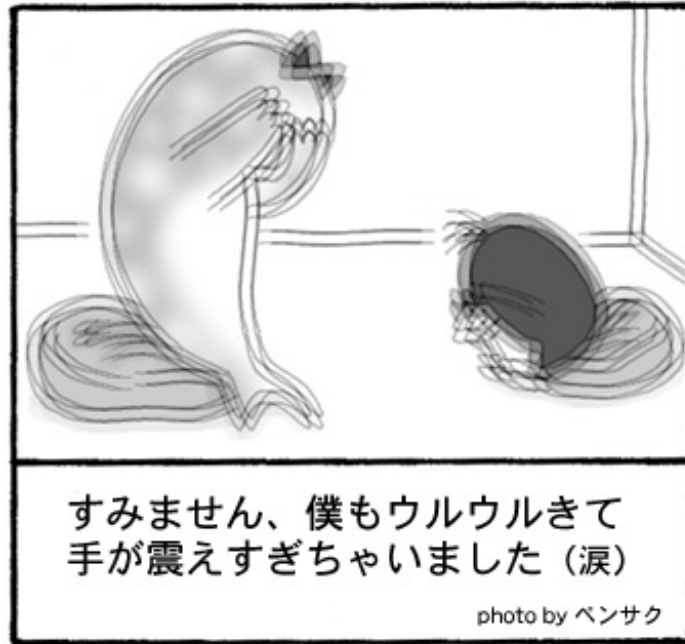


「私、ペンゾー君がおもいきって飛んだの見て  
すごい感動したもの！  
ペンゾー君がこんなに頑張ってるんだから  
私も落ち込んでる場合じゃない！って  
すごく元気が出たの！」  
って、ちょっと興奮しながら言った。

そして、ありがとう、って言って

涙をいっぱいこぼした。

なんだか俺も涙が出て来てとまんなくなって  
二人でいっぱい泣いた。



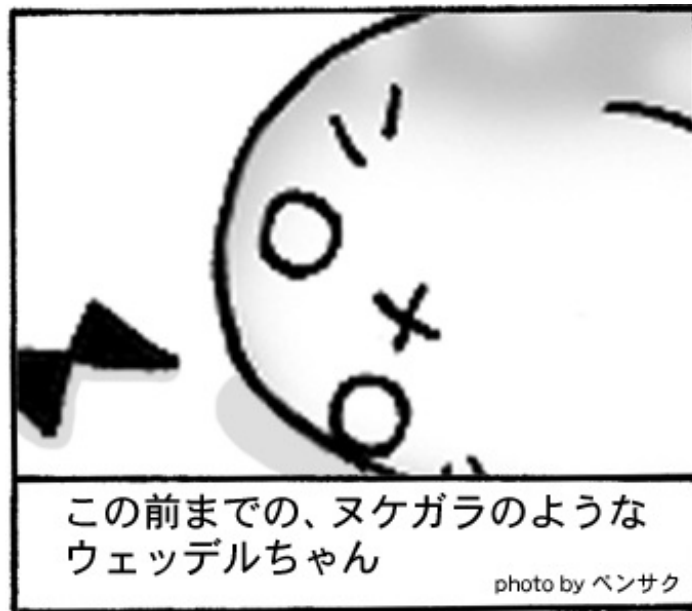
ウェッデルちゃんと言った。

「アニキさんは私の夢を『無理』って言ったけど  
でもそんなの、やってみなきゃわかんないじゃない？  
未来のことなんて誰にもわかんないもんね。  
だから私、まだあきらめないことにしたの。

とにかく

なんとかしてイイトコ島に戻って  
夢に向かって頑張ってみたいの！」

この前まであんなに落ち込んでたウェッデルちゃんとは  
別人（別アザラシ？）みたいだった。



俺も飛んだ（落ちた？）甲斐があったよ。  
かっこ悪かったけど。

なんだか俺の方が救われた気分になって  
俺もウェッデルちゃんに「ありがとう」って言った。

大泣きしてたから、ちゃんと言えてたかわかんないけど。

ウェッデルちゃんを見送ってから俺は  
ウェッデルちゃんが水族館の  
アイドルになったところを想像してみた。



う～ん、いいね～。ウェッデルちゃん輝いてるよ～。



ああ、俺も見てみたいなあ。  
俺はイトコ島には行けないけど。

．．．．．あれ？ちょっと待てよ？  
ウェッデルちゃんがイトコ島に帰るってことは

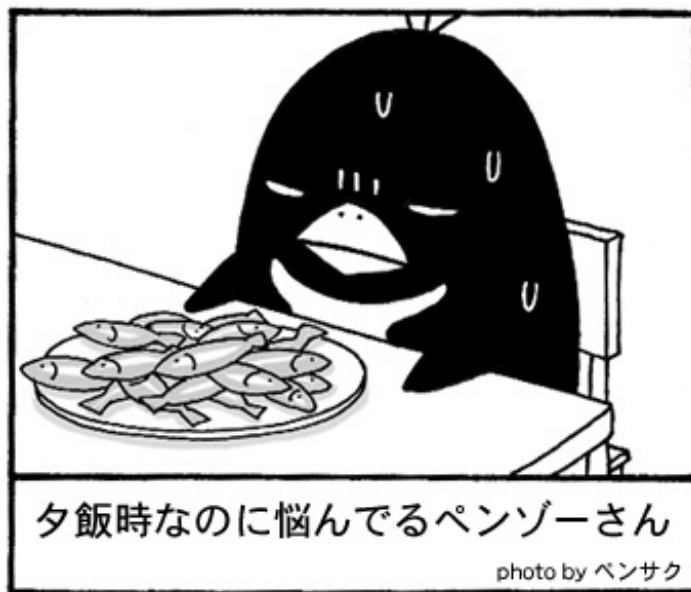
もう会えないってこと？



ええ—————っ？

ウェッデルちゃんの夢  
叶ってほしい。  
でも叶ってほしくない。  
でも叶ってほしい。  
でもやっぱり...

うう~~~~~



ウェッデルちゃんの夢が叶ったら  
俺はちゃんと喜んであげられるのかな。

うん、そりゃ喜ぶよ。  
だって嬉しいもんな。

でもお別れなんて...

いや、でも夢が叶うのは嬉しいよ！

でもお別れなんて...

ああ———もうっ！  
頭の中がぐちゃぐちゃだよ！  
夕飯どころじゃないよ！



こ、好物は仕方ないじゃないかっ！

アニキが来た。



もういっすよ、その話は（涙

アニキの用事はグチだった。

昨日、アニキのところにウェッデルちゃんが来て  
「イトコ島に連れてって」と  
何度も何度も頼んだんだそうだ。

アニキは  
イトコ島まで飛ぶ気がないからって  
断ったらしいんだけど  
ウェッデルちゃんは  
「OKしてくれるまで毎日頼みに来る」  
って言ってたんだって。



そ、そんなこと言われても無理っすよアニキ！  
てか、なんでそんなに  
イトコ島に行くのがイヤなんすか？



．．．．．はあ．．．（汗）

でも、そういえばアニキは今、休養中だもんな。  
これからまた長い渡りの旅に出るために体を休めてるのに  
遠い遠いイトコ島まで  
アザラシ乗っけて飛んじやったら  
また休養しなきゃならなくなって  
その分また渡りに出るのが遅くなっちゃうもんな。

「なんとかしろ」と言うアニキに  
俺はあいまいな返事をしながら  
とりあえず、アニキが帰るのを見送った。

俺だって、ウェッデルちゃんに  
イトコ島に帰ってほしくなんかないよ。  
でも……

あ～、このまま  
ウェッデルちゃんがイトコ島に行く方法が  
見つからないままで  
ずっと何年も過ぎちゃえばいいのに…

って  
そんなふうに思ってちゃダメじゃん！  
なに考えてんだよ俺！  
俺のバカっ！（涙）

その時だった。  
ウェッデルちゃんが血相変えてうちに飛び込んできて  
叫んだ。

「ペンゾー君！大変！」



ええっ!?

ふふ船！？

イトコ島行きの船が来てるのっ！？

なななにそれ！！！！



ウェッデルちゃんは興奮しながら言った。

「そこの海岸に船が来てるの！

さっきそばに行ってみたらイトコ島の匂いがしたの！

絶対にイトコ島から来たのよ！

あの船に乗ることができたら」



「ああ、どうしよう！

どうやったら乗せてもらえるのかしら！」



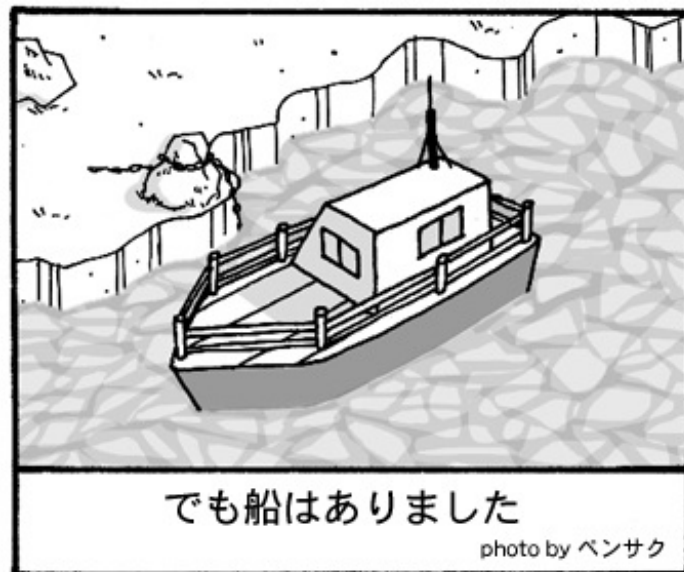
とりあえず、海岸に行ってみることにした。

ウェッデルちゃんは  
「早く行かないと船が帰っちゃうかも！」って言って  
すっごく頑張って走った。

そりゃそうだよね。  
だってここにイトコ島の船が来るなんて  
そんな奇蹟、もう一生無いかもしれないし。

俺も一緒に、必死で走ったよ。  
でも必死で走りながら、心のどっかで  
「船がもう帰っちゃってたらいいのに」って  
うっすら思ってたんだ。

すごいやな奴だなあ俺って... (涙)



ああ...あるね..... (凹)

でもニンゲンが乗ってない。  
どっかに行ってるんだな、きっと。

ウェッデルちゃんが  
「ニンゲンが戻ってくるまで、ここで待ってる」  
って言った。  
俺は「うん、そうしよう」って言うつもりだったのに  
口から出た言葉は逆だった。



「今日は誰も戻ってこないよ！俺にはわかるんだ！  
知らないと思うけど  
ペンギンって予知能力があるんだよ！」

自分でもビックリするような  
とんでもないデタラメが口から出て来た。  
なんだよ予知能力って（涙）

そんなにウェッデルちゃんを船に乗せたくないのかな俺。  
最低だよホント（涙）



でもウェッデルちゃんは



あああ...他人を疑うことを知らない  
こんないいコをだまそうとするなんて...

俺ってほんと... (涙)



それからちょっと困った顔をしながら  
ウェッデルちゃんは言った。  
「ペンゾー君のこと信用してないわけじゃないんだけど  
でも私、ここで待ちたいんだ」

そりゃそうだよな。  
待ちたいに決まってる。

俺は何も言えなくなって  
ウェッデルちゃんと一緒にニンゲンを待つことにした。  
ニンゲンをビックリさせないように  
岩場に隠れながら。



だめだなあ俺。  
ウェッデルちゃんの夢を邪魔するよーなこと言って。  
邪魔する気なんてないのに。  
ないはずなのに。

俺、自分のことキライになりそうだよ...



昨日は結局

いくら待ってもニンゲンは戻ってこなくて  
俺達は岩場の影に隠れたまま一夜を明かし、朝を迎え  
そしてまた午後になった。

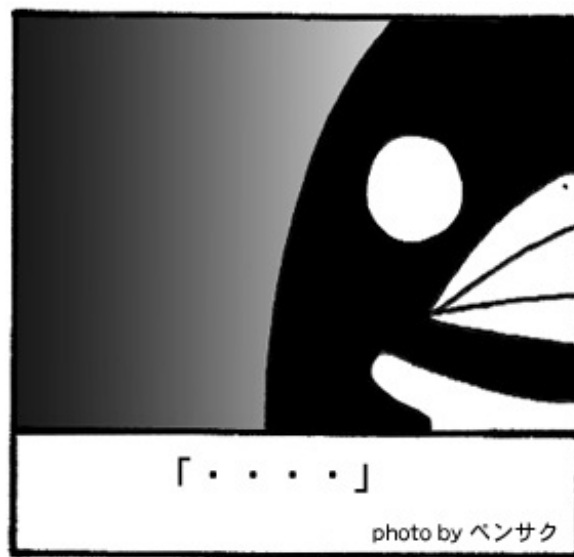


ウェッデルちゃん、疲れちゃったんだな。  
全然元気なくなっちゃったもんな。

俺はウェッデルちゃんに  
「大丈夫？なんか元気ないみたいだけど...」  
と声をかけた。

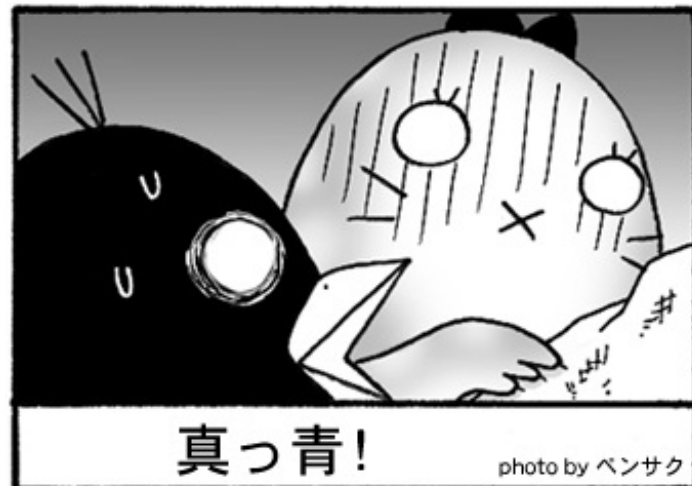
ウェッデルちゃんは言った。  
「大丈夫。  
元気がないのは疲れたせいじゃないの。  
あのね、ペンゾー君。  
私、一晩考えて、わからなくなってきちゃったの」

ウェッデルちゃんが話を続けようとしたその時  
聞き慣れない足音が響いてきた。  
なんだ？



俺は頭の中が真っ白になった。

でもとなりのウェッデルちゃんを見たら



どどどどーしたのっ？ウェッデルちゃん！

早くニンゲンに声かけないと船が出ちゃうよっ？

(出ちゃっても俺はいいけど！！)

ウェッデルちゃんは震える小さな声で言った。

「ああ、どうしたらいいのかしら...

私、本当にわからなくなっちゃったの。

この船に乗った方がいいのかどうか...

この船でイトコ島に帰れるんなら

それはすっごく嬉しいんだけど...

でも、それって

もう二度とペンゾー君に会えなくなるってことよね？」



俺はびっくりした。

こんな大事な時に、ウェッデルちゃんが俺のこと考えて  
寂しがってくれてるなんて！！

俺は、ウェッデルちゃんの手をつかんで  
この海岸から走り去ろうかと思ったよ。

でもそんなことしていいのか？  
ウェッデルちゃんは後悔しないのか？  
俺は後悔しないのか？  
ウェッデルちゃんの夢をここで終わらせちゃって  
本当にいいのか？

ニンゲンはもう、船出の準備を始めていた。  
もう時間がない！

俺は一瞬で心を決めた。

ウェッデルちゃんを見送ろうって。

だって  
ウェッデルちゃんの夢に通じる道が  
いま目の前にひらけるって時に  
俺がそれを壊すなんて！  
そんなこと出来るわけじゃないか！！

俺にできることは  
ウェッデルちゃんの、このめでたい出発を  
「おめでとう」ってお祝いしながら  
笑顔で見送るってあげるだけなんだ！

俺は夢中でウェッデルちゃんに叫んだ。





「俺、絶対すぐ飛べるようになるから！  
そしたら毎日イトコ島に遊びに行くから！  
だから、これでお別れなんかじゃないよ！  
早くニンゲンに声をかけなよウェッデルちゃん！  
ほら、もう船が出ちゃうよ！」

ウェッデルちゃんは、涙をいっぱい浮かべて俺の顔を見つめた。



そしてすぐに  
ニンゲンに向かって一目散に走っていった。

俺は岩場に隠れながら  
ウェッデルちゃんが必死になってニンゲンに  
「連れってって」と頼んでいる姿を見つめていた。

もちろんウェッデルちゃん言葉は通じてないんだけど  
気持ちが通じたのか、ニンゲン達は  
ウェッデルちゃんをすんなり船に乗せてあげて  
船から落ちないように網をかぶせてあげてから  
すぐに出発した。



ウェッデルちゃんは  
ありがとう、って何度も何度も叫んだ。

俺もいっぱい叫んだ。  
「おめでとう」とか「頑張れよ」とか  
「すぐ会いに行くよ」とか。  
一生懸命、笑顔で叫んだ。

でも俺、ほんとはわかってるんだ。

たとえ俺が飛べるようになっても  
イトコ島なんて遠すぎて  
行けやしないってこと。



あっというまに船は見えなくなった。

笑顔で見送ることができたと思ってたのに  
気が付いたら俺の顔は  
涙でぐしゃぐしゃになっていた。

きっとすごい顔になっちゃってるよ。  
ウェッデルちゃん、見ちゃったかな。

でも見ちゃったかどうかなんて  
もう聞けないんだ。  
もう話もできないんだ。  
もう一緒に遊ぶことも  
一緒にお魚を食べることも  
あの笑顔を見ることも  
なんにもできないんだ。

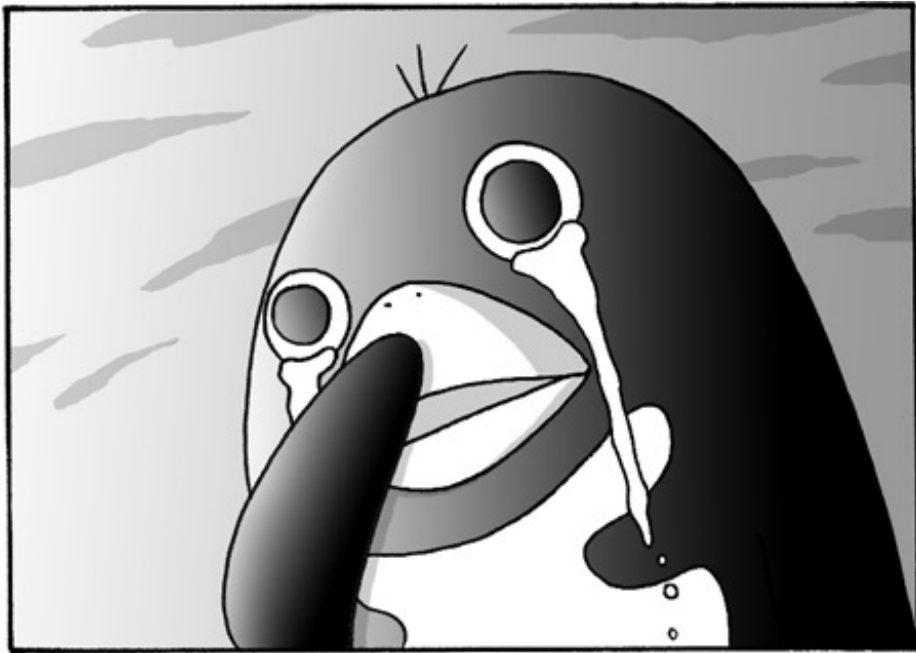
俺は  
いっぱい泣いた。  
おかしくなっちゃったかと思うほど  
いっぱい涙が出て  
止まらなかった。

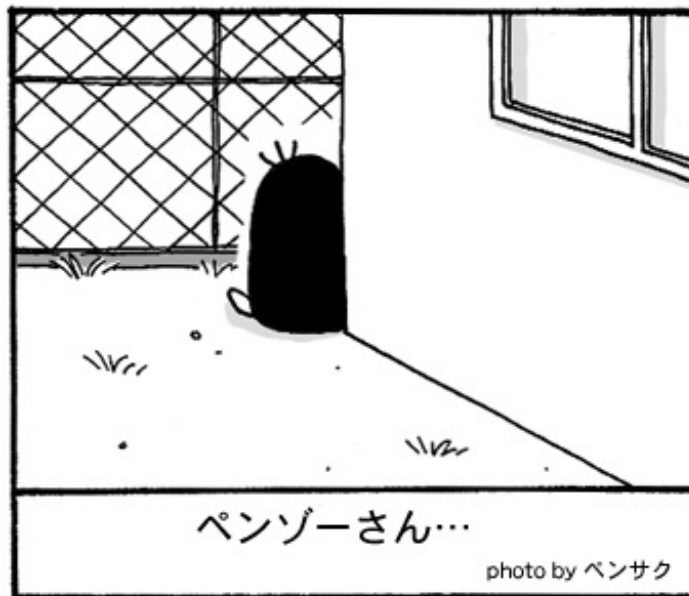
ウェッデルちゃんが船に乗れたことを

喜んであげなきゃいけないのに  
そんな気持ちには  
全然なれなかった。

ごめんな、ウェッデルちゃん。

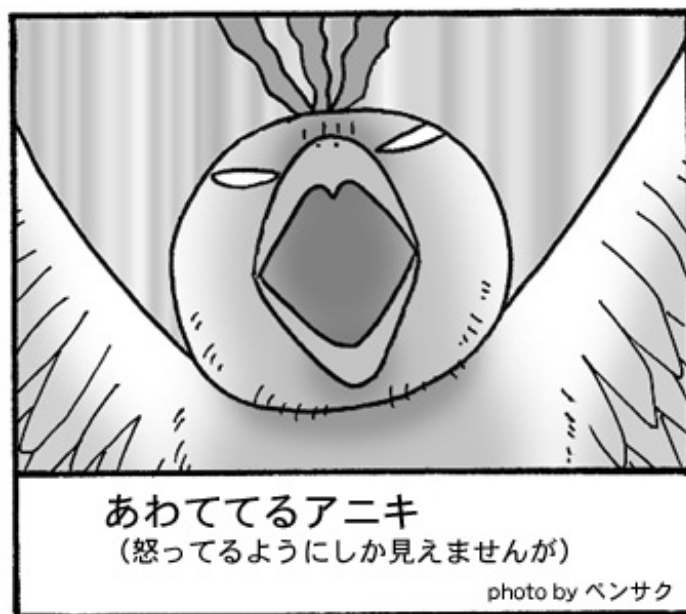
ほんとにごめんな。





泣いても泣いても涙が出てくる。  
目が壊れちゃったみたいだ。

午後になってアニキが来た。  
すごくあわててるけど、どうしたんだろ。



「あのアザラシ、海岸に停めてあった船に乗ったのか？」  
と、アニキはすごい顔で叫んだ。

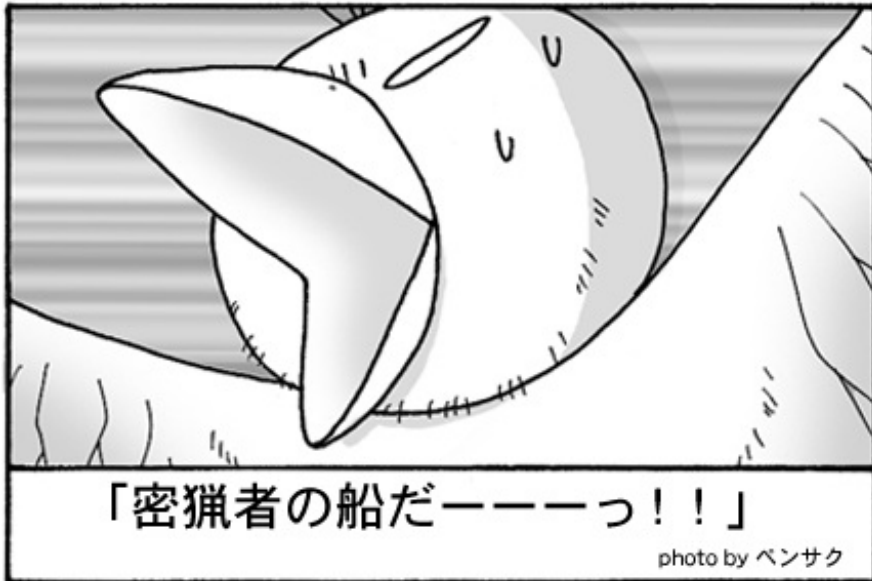
ウェッデルちゃんがその船に乗って  
イトコ島に行ったというウワサを

アニキは今日どこかで耳にしたらしい。

俺が「うん、乗って、行っちゃいました」と言うと

アニキはますます怖い顔になってこう叫んだ。

「バカ！あれは」



なにそれ。

え？

動物をさらって

殺して

皮を剥いで売っちゃったり

お肉にして売っちゃったりする

ニンゲンのこと？

へえー

...って



なんで「イトコ島」なんて名前のくせに  
そんな悪いニンゲンが住んでるんだよーっ！  
くっそー！名前にだまされたーーーーっ！（涙）

ウェッデルちゃんを助けにいかなくちゃ！  
でもどうしたらいいんだ！  
泳いで行くにはイトコ島は遠すぎるし！

ああ、この前作った翼がもっとしっかりしてりゃ  
飛んで行けるのに！



って、作ったの俺だけど！



「まだ休養中だけど仕方ねえ。  
こういうのは、ほっとけねえ性分だからよお」

アニキ！アニキ！アニキ！  
やっぱアニキは最高だ！  
俺、一生アニキの子分でいさせてもらいます！

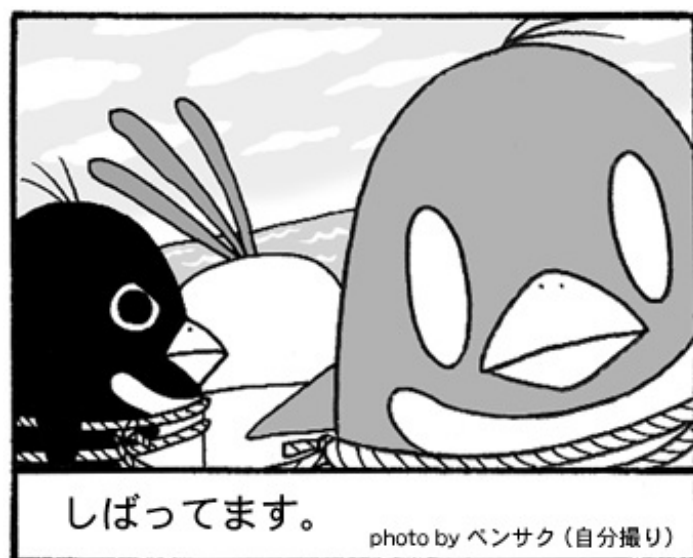
よし！  
大急ぎで出発だーっ！





アニキ速い！  
さすが伝説の鳥っすね！  
ちゃんとつかまってないと落っこちそうっすよ！  
このご恩は一生忘れないっすよ！

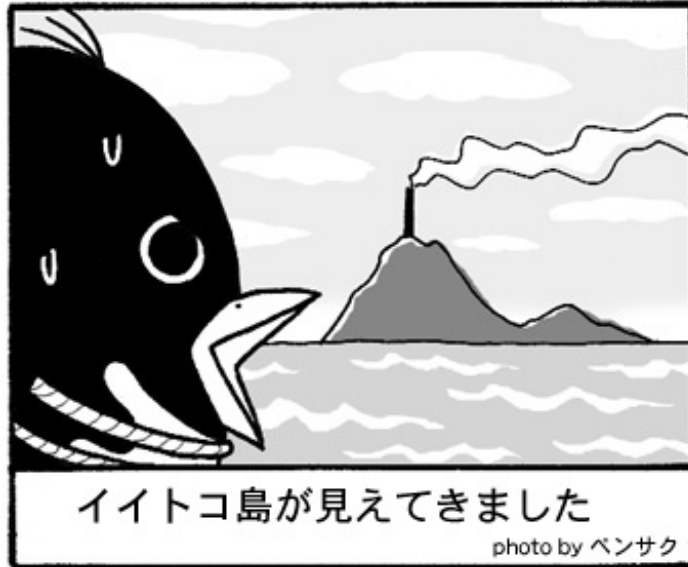
ペンサク！俺の体とおまえの体  
ちゃんと縄でしばっとけよ？  
おまえ腕力なくて落っこちそうだからな！



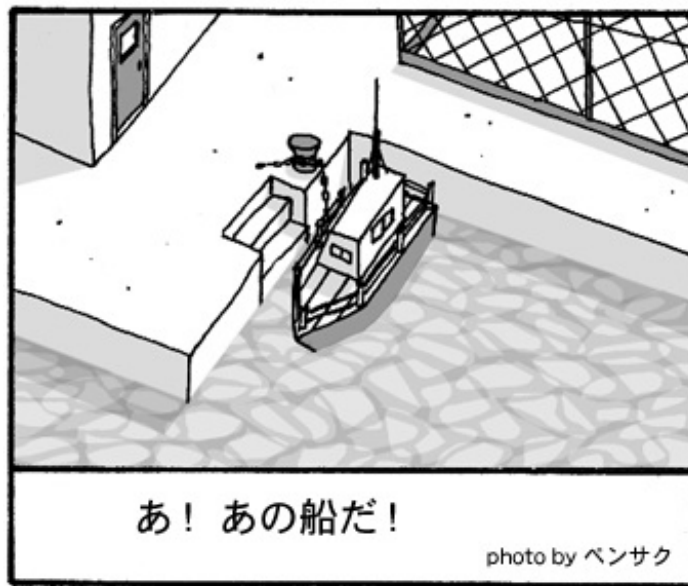
くそー  
俺が『ニンゲンに声をかけなくちゃ！』なんて言わなかったら  
ウェッデルちゃんは船に乗らなかったかもしれないのに！  
俺のバカ！

ぜんぶ俺のせいだ！

待ってるウェッデルちゃん！  
絶対に絶対に助けだすから！  
俺が行くまで、どうか無事でいてくれ！



おお！あれがイトコ島か！  
こんなに速く着けるとはっ！  
全速力で飛んでくれて感謝っすアニキ！



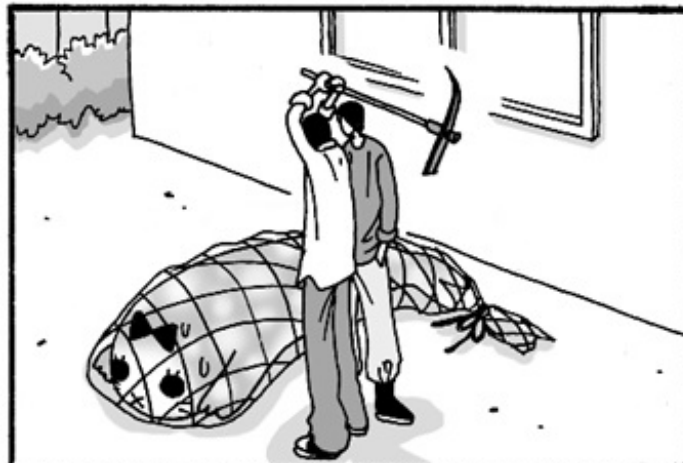
え？  
もう少し先にミツリョーシャのアジトがあるんスかっ？  
さすがアニキ、物知りッスね！！！！

あっ！  
あれッスか！？



アジト発見！

photo by ベンサク



ズームイン

photo by ベンサク



さらにズームイン (あ、やり過ぎました…)

photo by ベンサク

あ—————！！  
大変だ—————！！  
ウェッデルちゃんが————っ！！

は、早く助けないと  
毛皮とお肉にされちゃうぞ！  
アニキ早く！着陸！着陸！

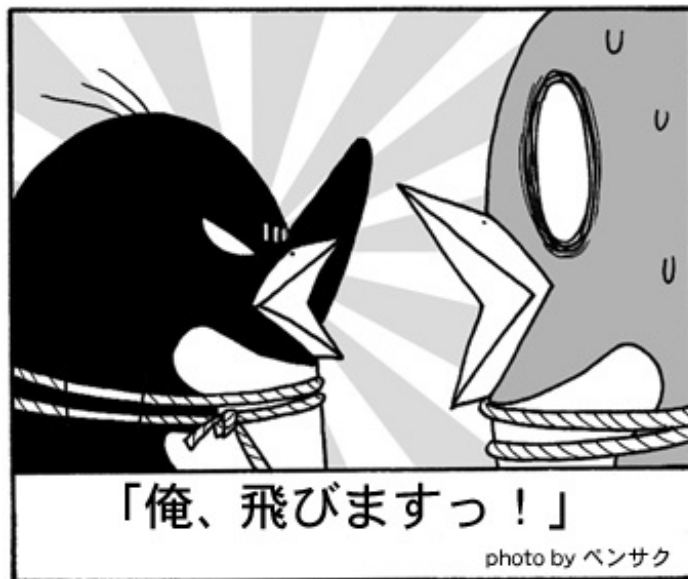


ううっ！そ、そっか！  
相手はミツリョーシャだもんな…  
特にアニキは珍しい鳥だから、見つかったら大変だ…

でででも、このままじゃウェッデルちゃんがっ！  
でもアニキまで危ない目に遭わせるわけにはっ…

うう————っ  
どうしたらいいんだ——っ！

えーい  
こうなったらもう



とめるなペンサク！  
長距離飛行で疲れてるアニキや  
ケンカの弱いペンサクを  
ミツリョーシャに近付けるわけにはいかないんだっ！

俺は一人で大丈夫だ！心配するな！

よしっ！飛ぶぞ！  
さん、にー、いち

とおおおおおおっ！！

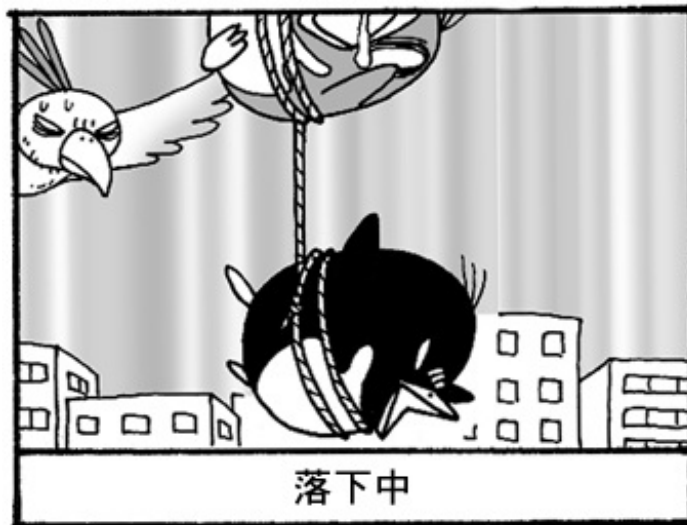
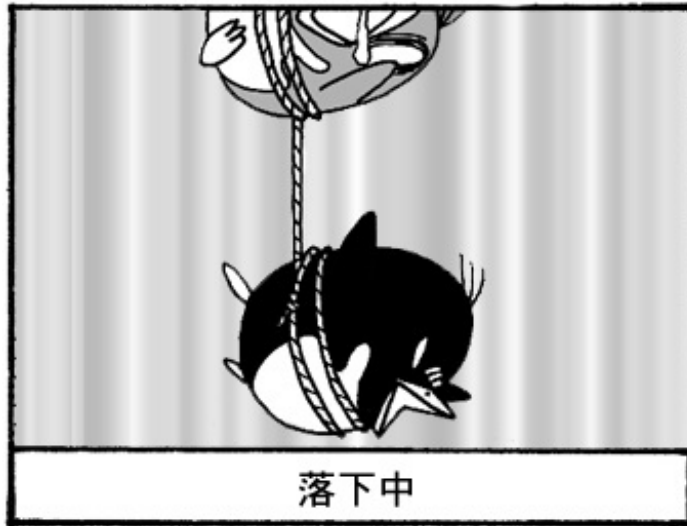


あっ！ペンサクの縄ほどくの忘れてた！ごめん！  
って、もう遅いけど！

### ペンサク注

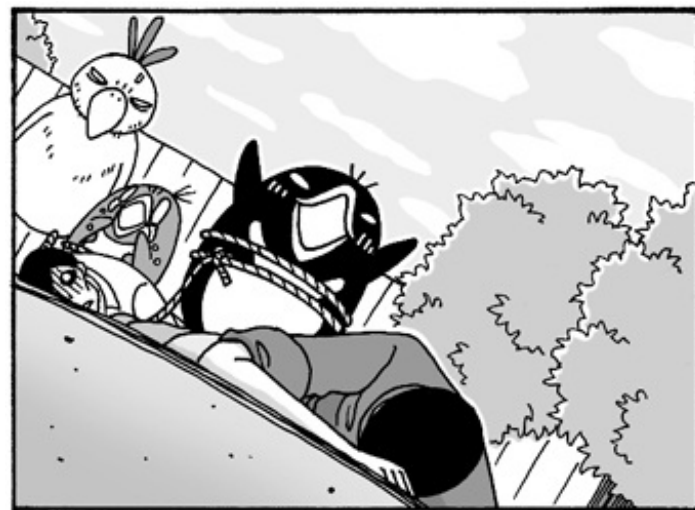
カメラを手放す瞬間に、たまたま  
自動の連写ボタンを押してしま  
いましたので

ここからしばらくは僕達と一緒に落ちるカメラに  
よる連続写真をお送りします。



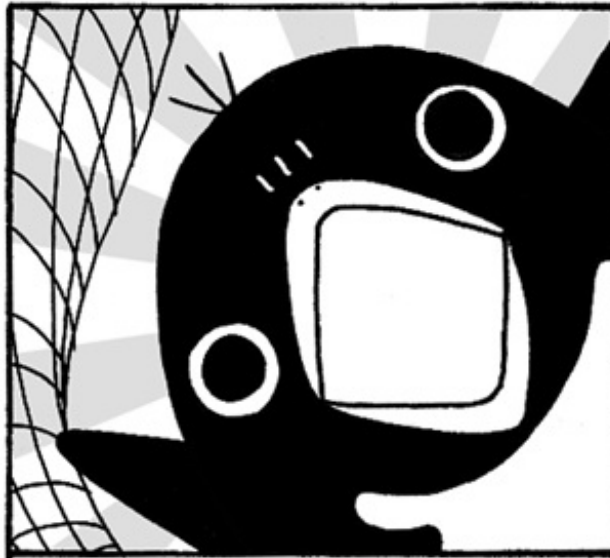


狙ってないのに密猟者直撃



偶然のラッキーなのに「作戦成功！」  
と叫ぶ図々しいペンゾーさん

(注/カメラはなんとか無事でした)



「ウェッデルちゃん！」

photo by ペンサク



「ペンゾー君！」

photo by ペンサク

ああ、無事でよかった！  
また会えてよかった！  
ほんとにほんとによかった！





こんなに嬉しかったのは  
生まれて初めてだよ  
本当に  
  
本当に



ウェッデルちゃんのショックとアニキの疲れを  
癒してるうちに夕方になり  
そしてすぐに夜になった。

今日はもう帰れないから

今晚はみんなで、このへんで寝ることにした。

明日の朝になったら俺達は帰るけど  
ウェッデルちゃんはこのイトコ島に残るんだよな？

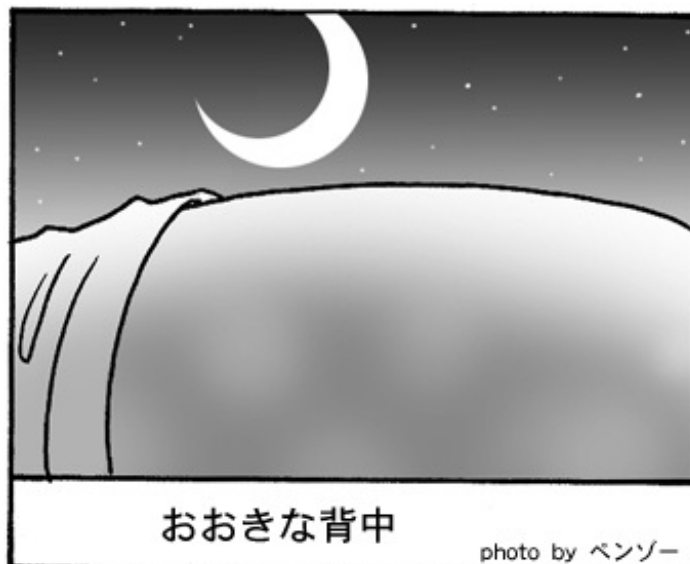
またお別れか...寂しいなあ...  
俺、ウェッデルちゃんともう  
離ればなれになりたくないなあ...

でも、そんな言葉を口に出したら  
ますますお別れが辛くなっちゃいそうだから  
何も言わないでおこう。

今はただ  
こうしてまたウェッデルちゃんと一緒にいられるシアワセを  
ひたすら噛み締めていよう。

ウェッデルちゃんは、よっぽど疲れたのか  
横になってすぐに眠ってしまった。

俺も疲れてるはずなんだけど、全然眠くならなくて  
一晩中、隣で眠るウェッデルちゃんの大きな背中を  
ぼんやり眺めていた。



結局、一睡もできないまま夜が明けた。

眠っていたはずのウェッデルちゃんが  
急にハッキリした声で「ペンゾー君」と言った。

あれ？眠ってなかったのかな。

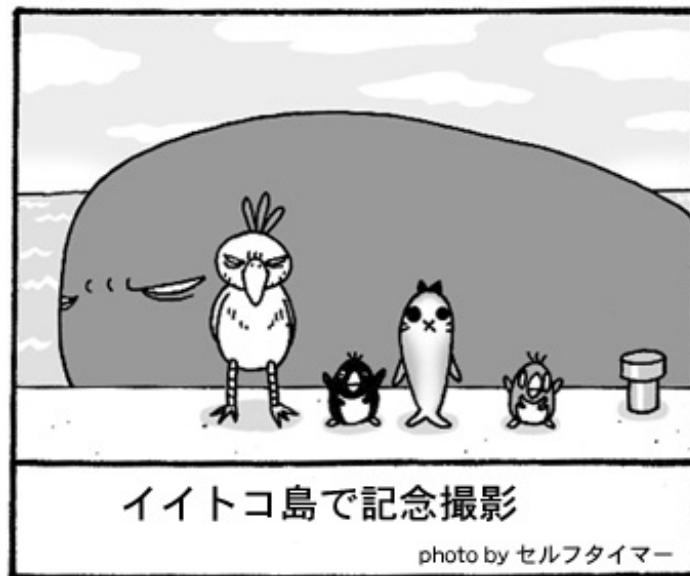
ウェッデルちゃんはゆっくり立ち上がり  
俺を見つめてこう言った。  
「私、一晩中考えて、決めたわ」

え？何を？

「あのね」

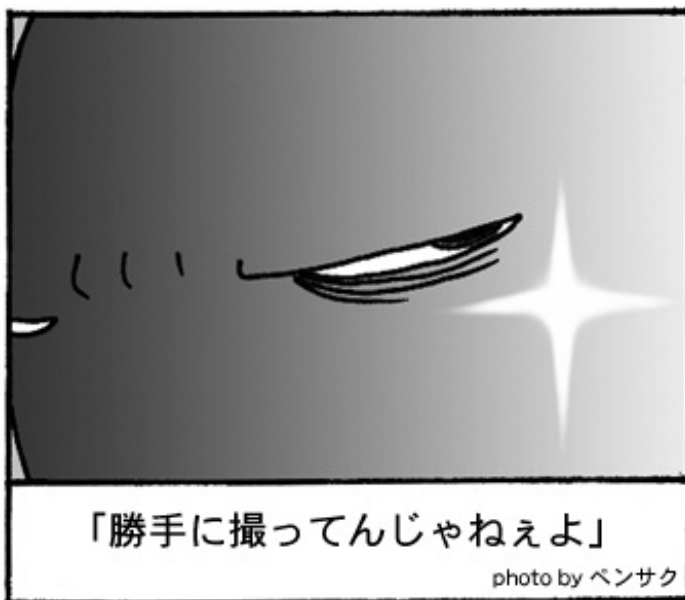


え？



アニキの疲れがなかなか取れないから  
(そりゃそうだよな...無理させちゃったもんな)  
帰りはアニキの友達のクジラさんの  
背中に乗せてもらうことになった。

ありがとうクジラさん！



...たしかにアニキの友達だ。  
間違いない...



でもウェッデルちゃん、本当にこれでいいの？  
せっかくイトコ島に帰れたのに。

頑張れば、夢だった水族館のアイドルにだって  
なれるかもしれないのに。  
お母さんにも会わずに帰っちゃって本当にいいの？



「なんかニンゲンこわくなっちゃったし...  
ママに会いたい気持ちもあったけど  
私もうとっくに親離れしてる歳だから  
会ってもママは私のこと、きっとわからないと思うし

それに  
私が世間知らずだったせいでこんなことになっちゃったのに  
みんなで助けに来てくれて...

本当に嬉しかったの。みんな本当にありがとう！

こんなに優しくてあったかい仲間は  
イトコ島にはいないわ。  
私、夢よりも大事なものを見つけたのよ！

でも、だからって  
『夢なんてやっぱり叶わない』なんて  
思ったりはしてないのよ。  
夢は願えば叶うっていうのは本当だと思ったわ。  
だって  
飛んだもん、ペンゾー君」

え？  
あ、あれは飛んだっていうより  
落ちたっていうか...

「ううん、飛んだよ。」



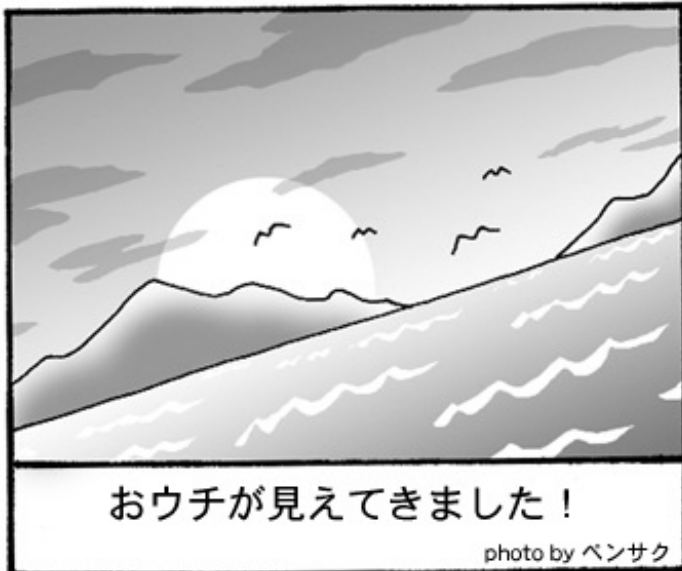
ウェッデルちゃんがそう言って笑ってくれたから  
俺はジーンときちゃって  
なんだかまた泣きそうになっちゃったよ。

かっこわるいからガマンしたけど。



ガマンできてませんよペンゾーさん

photo by ペンサク



おうちが見えてきました！

photo by ペンサク

ウェッデルちゃんが「飛んだ」って言うってくれるなら  
飛んだことにしておこう。

俺は夢を叶えたんだ。

ほらね、夢はいつかきっと叶うんだよ。

だからウェッデルちゃん

今回のショックは大きいだろうけど

また何か違う夢を見つけて

また前みたいに、笑顔で夢の話をしてよ。

そしたら今度は俺が  
キミの夢が叶えてあげるよ。

だって俺の夢は  
キミが叶えてくれたようなもんだから。



でも本音言うとき  
俺が本当に飛べたのかどうかなんて  
どっちでもいいんだ。

ウェッデルちゃんが無事に生きてて  
俺のとなりにいて  
笑ってくれてるから

飛べても飛べなくても俺は今  
世界一しあわせなペンギンだよ。  
それだけでもう十分だよ。  
他に何もいらないよ。

そんなことを考えながら  
俺はウェッデルちゃんの横顔を見た。  
あんな大変な出来事があったばっかなのに  
ウェッデルちゃんは何だかしあわせそうに見えた。  
気のせいかな。

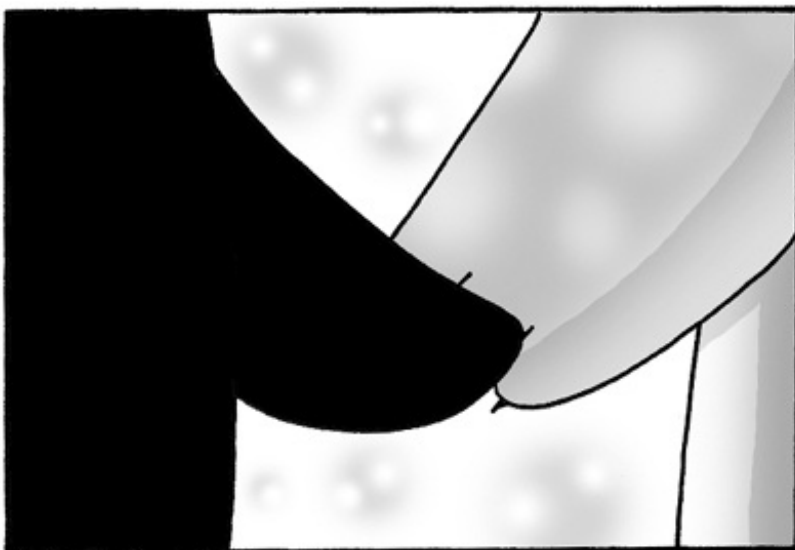


「あのねペンゾー君」  
と、ウェッデルちゃんが小さい声で言った。  
「私じつは、新しい夢ができたんだ」

えっ？ そうなのっ？ それはよかった！  
で、どんな夢？

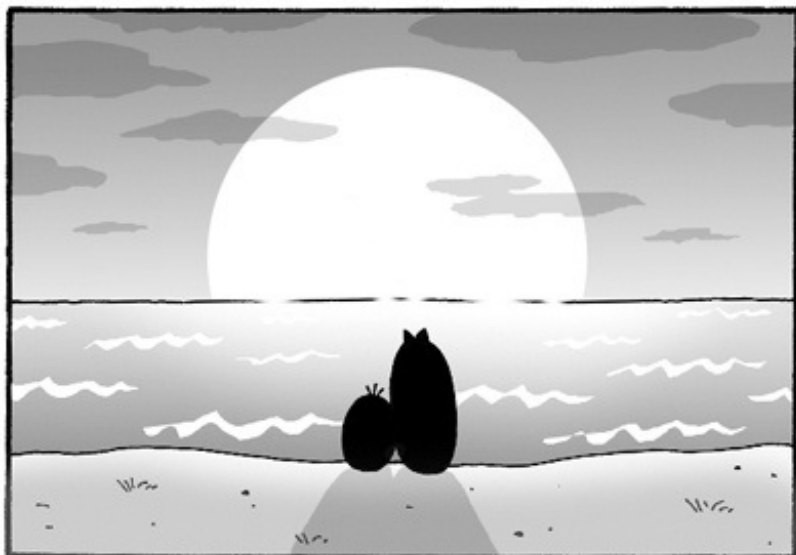


ウェッデルちゃん。  
そんなの夢って言わないよ。



だってもう

叶うに決まってるんだから



END

=====  
これで俺の話はおしまい。

ちゃんと全部ニンゲン語に翻訳できたか？ペンサク。

きっと後でどっかのニンゲンが読むんだろうから

最後にちゃんとお挨拶しなくちゃな。

よし、じゃあ、ご挨拶用に「しゃしん」しようぜペンサク！

みんなも呼んでこよう！

…というわけで



完

その後のふたり

